



九州工業大学の概要



平成28年5月25日

「技術に堪能なる士君子」の養成



九州工業大学の生みの親
安川 敬一郎氏
1849～1934年



九州工業大学の育ての親
山川 健次郎氏
1854～1931年



私立明治専門学校本館（当時）
設計 辰野金吾先生

1909年、**私立**の4年制・旧制工業専門学校として開校。その後、**官立**に移管

1907	明治	明治40年	私立明治専門学校設立認可
1909		明治42年	開校
1921	大正	大正10年	官立明治専門学校へ移管
1944		昭和19年	明治工業専門学校(3年制)に改称
1949		昭和24年	明治工業専門学校を包括、九州工業大学設置
1951	昭和	昭和26年	明治工業専門学校廃止
1965		昭和40年	大学院工学研究科(修士課程)設置
1986		昭和61年	情報工学部設置
1988		昭和63年	大学院工学研究科(博士課程)設置
1991		平成3年	大学院情報工学研究科(修士課程)設置
1993		平成5年	大学院情報工学研究科(博士課程)設置
2000	平成	平成12年	大学院生命体工学研究科(独立研究科/博士課程)設置
2004		平成16年	国立大学法人九州工業大学設置
2009		平成21年	創立100周年
2013		平成25年	MSSC(海外教育研究拠点)設置

概要(3つのキャンパス)



戸畑キャンパス(in 1909): 工学部・工学府
飯塚キャンパス(in 1986): 情報工学部
情報工学府
若松キャンパス(in 2000): 生命体工学研究科



シンボルマーク

創立100周年の節目に制定



これからの未来、これからの100年「動作・活動」
=Action



今までの歴史、今までの100年「価値・値打ち・評価」
=Value



未来と歴史を1本にボルトのモチーフでつなぎとめて、全体として1本の太い棒にしています。貫かれた大学方針を表しています。



学生の飛躍感や、社会・世界へ飛び出していく元気のよいイメージ。上記と組み合わせて、九州工業大学の頭文字「K」の形になります。



A(action) V(value) K(yutech)の頭文字をユニットにしフレッシュで斬新なイメージのカラー使いで未来へ羽ばたいていく学生やこれからをリードしていく大学を表現しました。



I 工学部・大学院工学府 (戸畑キャンパス)

「ものづくり」の基本を備えた技術者の養成

学 部：工学部 6学科

機械知能工学科、建設社会工学科、電気電子工学科、
応用化学科、マテリアル工学科、総合システム工学科

大学院：工学府

(博士前期課程) 5専攻

機械知能工学専攻、建設社会工学専攻、電気電子工学専攻
物質工学専攻、先端機能システム工学専攻

(博士後期課程) 1専攻

工学専攻

II 情報工学部・大学院情報工学府 (飯塚キャンパス)

情報を基盤に国際的に視野を持つ高度技術者の養成

学 部：情報工学部 5学科

知能情報工学科、電子情報工学科、システム創成情報工学科
機械情報工学科、生命情報工学科

大学院：情報工学府

(博士前期課程) 3専攻

先端情報工学専攻、学際情報工学専攻、情報創成工学専攻

(博士後期課程) 1専攻

情報工学専攻

III 大学院生命体工学研究科 (若松キャンパス)

生命科学を応用するシステム技術者の養成

(博士前期課程) 2専攻

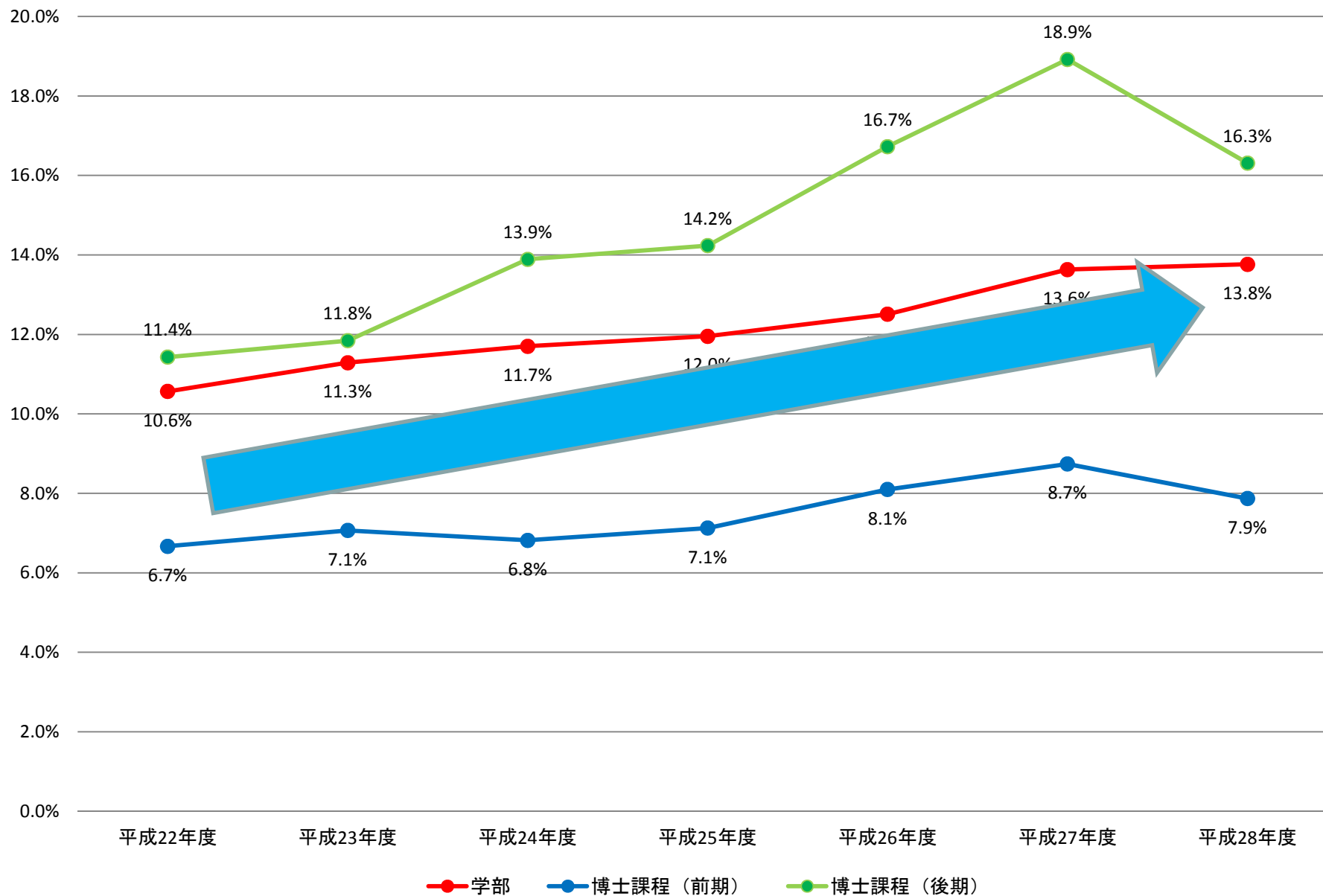
生体機能応用工学専攻、人間知能システム工学専攻

(博士後期課程) 1専攻

生命体工学専攻

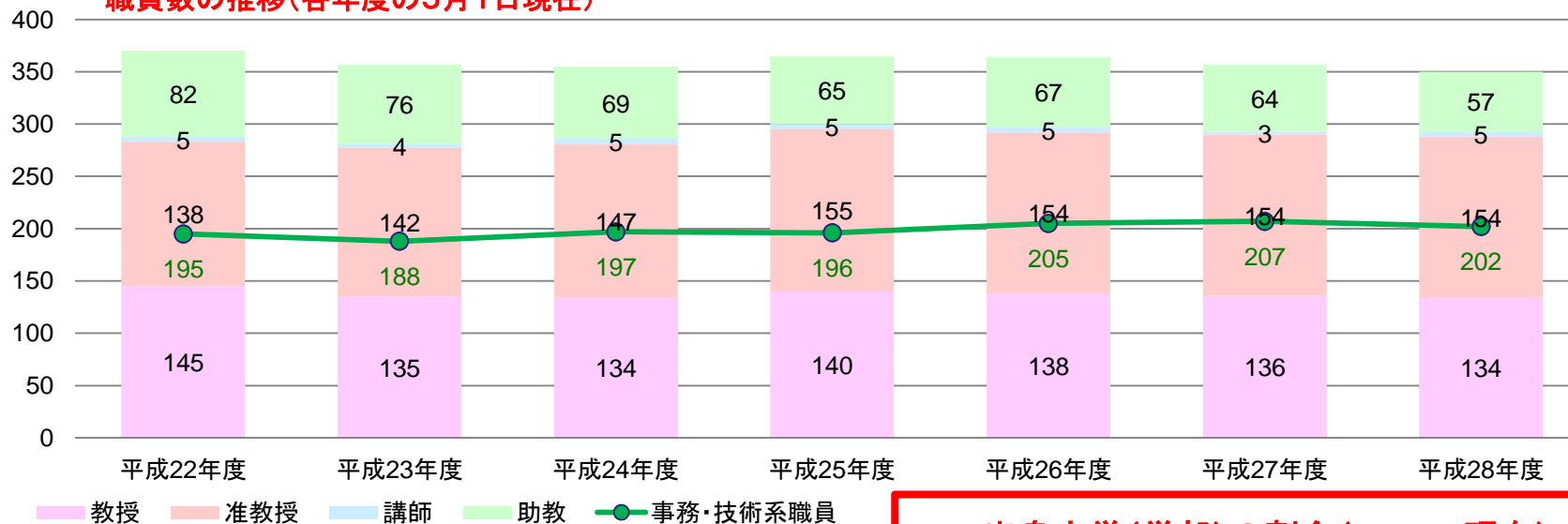
在学生数(H28.5.1)		内数	
		女子	留学生
工学部	2,342	261	11
情報工学部	1,828	313	11
学部小計	<u>4,170</u>	<u>574</u>	<u>22</u>
工学府	590	37	49
情報工学府	398	37	20
生命体工学研究科	283	26	25
前期課程小計	<u>1,271</u>	<u>100</u>	<u>94</u>
工学府	88	11	35
情報工学府	51	5	21
生命体工学研究科	143	30	47
後期課程小計	<u>282</u>	<u>46</u>	<u>103</u>
合計	<u>5,723</u>	<u>720</u>	<u>219</u>
		(12.6%)	(3.8%)

在学生に占める女子学生の割合(%)

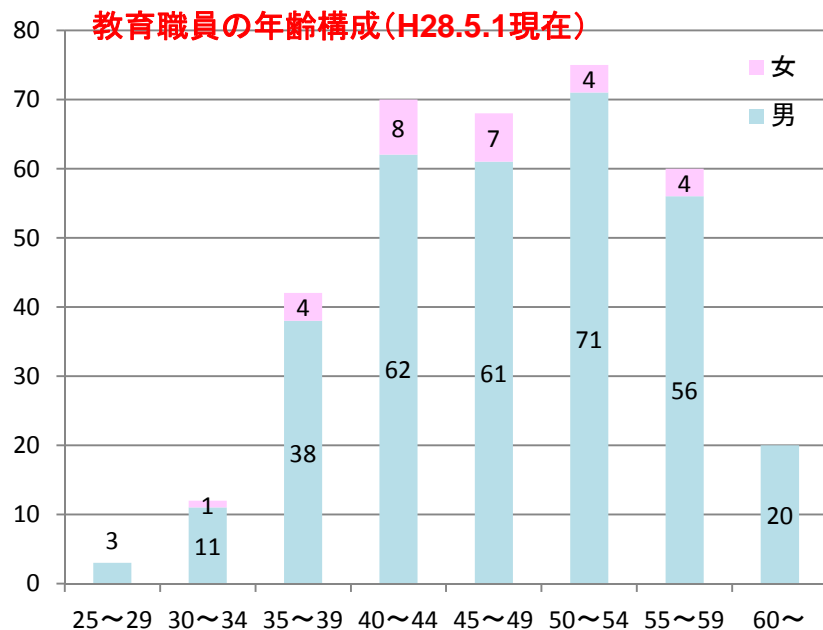




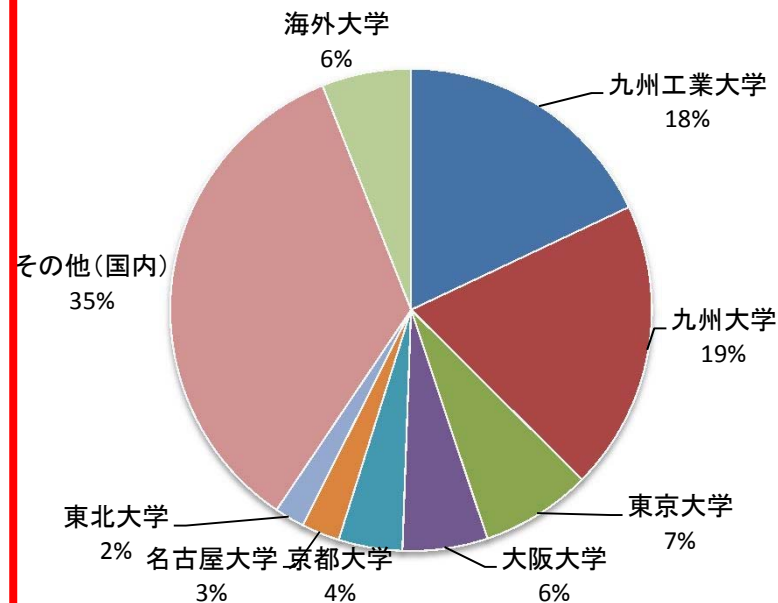
職員数の推移(各年度の5月1日現在)



教育職員の年齢構成(H28.5.1現在)



出身大学(学部)の割合(H28.5.1現在)

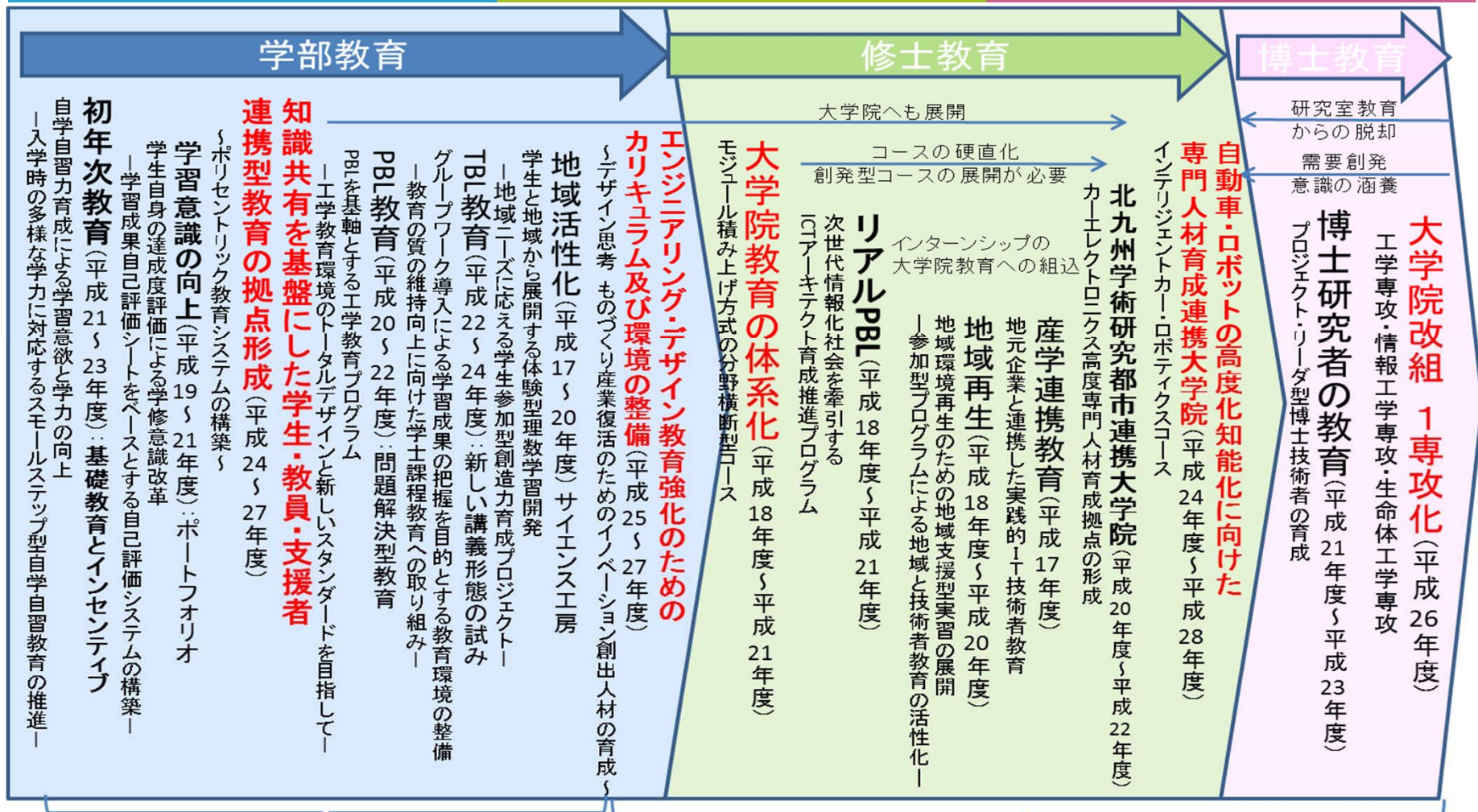


※教育職員の約30%が企業等経験者である。



九州工業大学の教育改革に関する取組





インセンティブ、主体性、キャリア意識と
基礎学力を高める教育システム

より高度に、より幅広く、より実用的に

国立大学改革強化推進補助金（平成25年度～平成30年度）
社会と協働する教育研究のインタラクティブ化加速パッケージ
～技術者のグローバル・コンピテンシー獲得へ～



「主体的に学び・考え・行動する力を鍛える」ための重点施策

■達成するアウトカム■

- ① 自発的学習習慣の獲得・定着（自ら考え学習する個）
- ② 複雑・多様化する課題発見・解決力の獲得（PBL, プロジェクト学習）
- ③ 協調力の獲得（チーム力、コミュニケーション力の涵養）
- ④ デザイン力の獲得（エンジニアリング・デザイン能力の養成）

“Global Engineer”としての資質涵養（教育改革パッケージ）

■達成するアウトカム■

- ① 海外での実体験（多文化社会を「体験・経験」した人材育成）
- ② 国際的交渉力
（エンジニアとして相手の事情を把握・理解した上でコミュニケーションができる
職業倫理を有した人材育成）
- ③ 国際感覚を伴ったデザイン・実践力
（世界に通用する知識・技術を身につけ、グローバルなニーズを捉えた上で
デザイン・実践ができる人材育成）



本学が提供するすべての教育プログラムごとの学習・教育目標達成度を、教員評価による成績および学生の自己評価の結果を使ってレーダーチャートとバーチャートで可視化

教員視点の成績と学生自身の自己評価に基づく目標達成度が同型をしている教育プログラムは良く機能しているといえる
成績の良し悪しに関係なく2つの目標達成度の類似性が教育プログラムを評価するマクロ指標になる

教育プログラムを構成するすべての授業科目が達成目標とそのルーブリックを設定して評価基準を明確化し、かつルーブリックに沿った教育実践と成績評価を行ってれば、教員評価による目標達成度と学生自身による自己評価による目標達成度は、学生各々について類似するはず【授業や教育プログラムの教育効果の可視化】

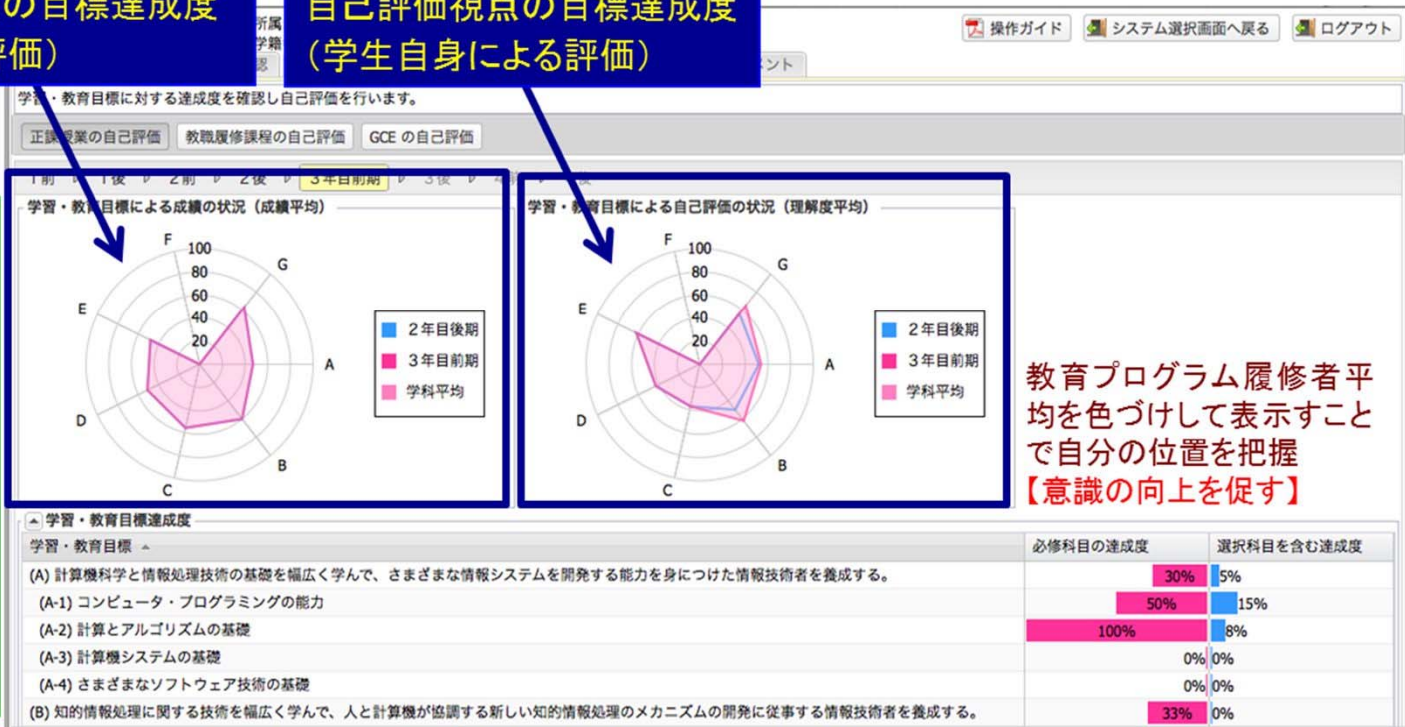
授業科目の達成目標における教員評価と自己評価の類似度、それを積み上げた教育プログラムにおける評価の類似度、さらにそれらを積み上げた部局および大学全体で教育プログラムを捉えた類似度【内部質保証を測る指標】

成績評価視点の目標達成度
(教員による評価)

自己評価視点の目標達成度
(学生自身による評価)

教育プログラムごとに達成度を数値化する積み上げ方法を設定

学習・教育目標達成度の詳細項目に関して、必須達成度と学生の学修意欲で向上する+α達成度を分けて表示



教育プログラム履修者平均を色づけて表示することで自分の位置を把握【意識の向上を促す】



■ 学生プロジェクト・萌芽的プロジェクト

本事業は、課題探求とその解決能力を涵養し、工学基礎力と共に、コミュニケーション能力、及び幅広い教養を身に付け、企業や社会において先導的リーダーシップを発揮することのできる創造的人材の育成を目的とする。

学生プロジェクト

すでに活動実績があり、「公募対象プロジェクト」に該当する団体に対して、「学生プロジェクト」として公募する。支援額は総額1,500万円程度、採択件数は10件程度とする。ただし、助成金の限度額は、1団体200万円とする。

安川電機プロジェクト (平成27年度より新設)

活動実績の有無を問わず、教員の指導のもと、メカトロニクスものづくり活動を行う学生グループに対して、公募する。支援額は総額200万円、採択件数は原則1件とする。

萌芽的プロジェクト

将来的に発展が見込まれる「公募対象プロジェクト」に該当する団体に対して、新規プロジェクトのスタートアップ支援として公募する。将来的に発展が見込まれる新規プロジェクトのスタートアップ支援として、萌芽的な取り組みを行う団体に対し、総額300万円を支援し、採択件数は10件程度とする。ただし、助成金の限度額は、1団体30万円とする。

<公募対象プログラム>

- 1) ハードものづくり系活動
 - 2) ソフトものづくり系活動
 - 3) ボランティア・地域連携諸活動等
 - 4) 調査活動(科学技術や1~3の活動のための予備調査等)
 - 5) その他の創造学習活動
 - 6) メカトロニクスものづくり活動(協賛:(株)安川電機)
- ただし、修士論文及び卒業研究並びに正規の授業等に関連して実施するものは除

● 応募・採択団体数 (平成27年度)

- ▶ 学生プロジェクト …… 応募：18団体 採択：13団体 (234人)
- ▶ 安川電機プロジェクト …… 応募：6団体 採択：1団体 (13人)
- ▶ 萌芽的プロジェクト …… 応募：3団体 採択：2団体 (18人)

● 主な学生プロジェクト

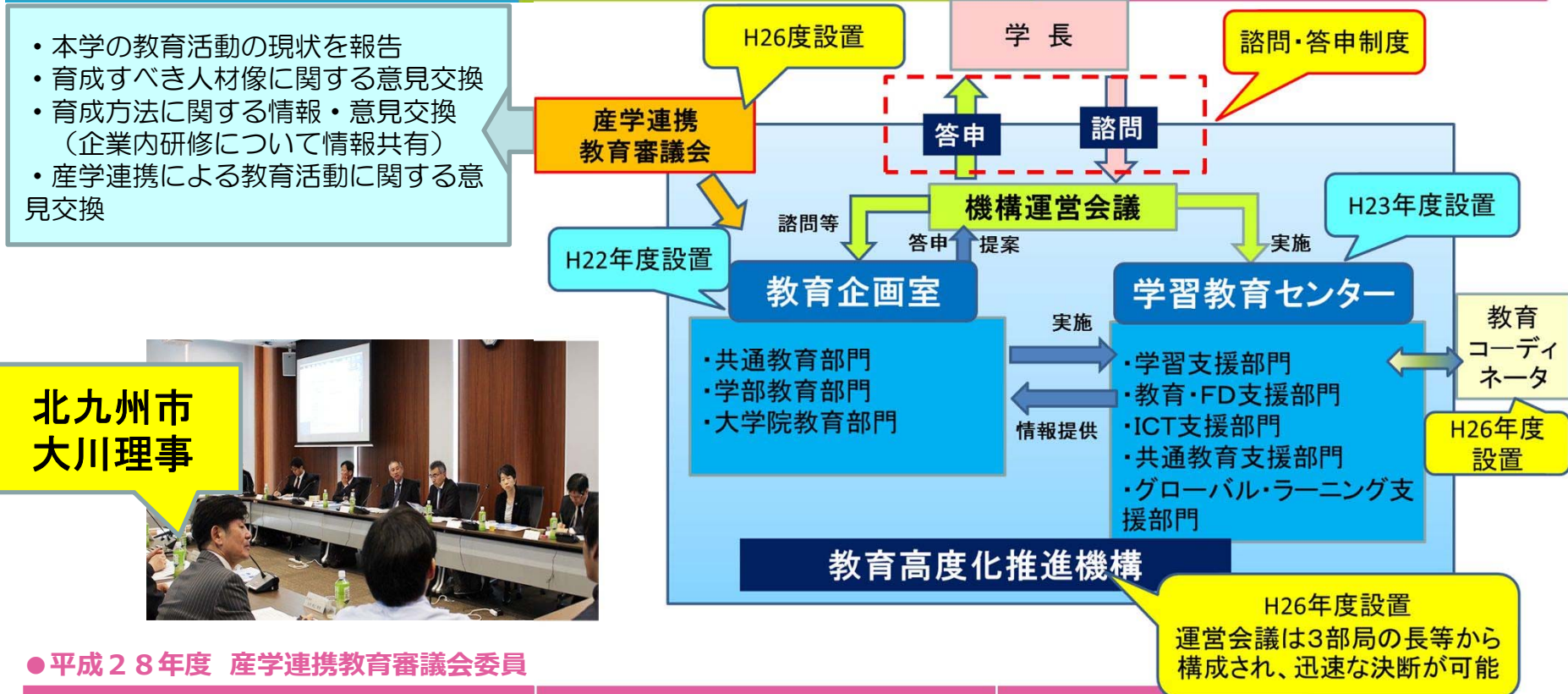
グループ名	活動内容
e-car	コンバート電気自動車製作プロジェクトKYU-TECHER (キューテッカー)
学生フォーミュラ (KIT-Formula)	学生フォーミュラ
P&D	サービス開発技術と先端情報技術を兼ね備えた実践的IT技術者育成プロジェクト
マイクロロボットコンテスト参加プロジェクト	マイクロロボットコンテスト参加プロジェクト
Hibikino-Musashi	RoboCup@Homeに向けた自律ロボットの開発と協議会への参加
ロボコンプロデュース出場プロジェクト	ロボコンプロデュースコンテストへの出場

● 安川電機プロジェクト

グループ名	活動内容
Hibikino-Musashi	oboCup中型リーグに向けた新型機開発

● 萌芽的プロジェクト

グループ名	活動内容
Bio Z	生命の学生を中心としたソフトウェア開発
ARC (アーク)	全自動トマト収穫ロボット開発プロジェクト



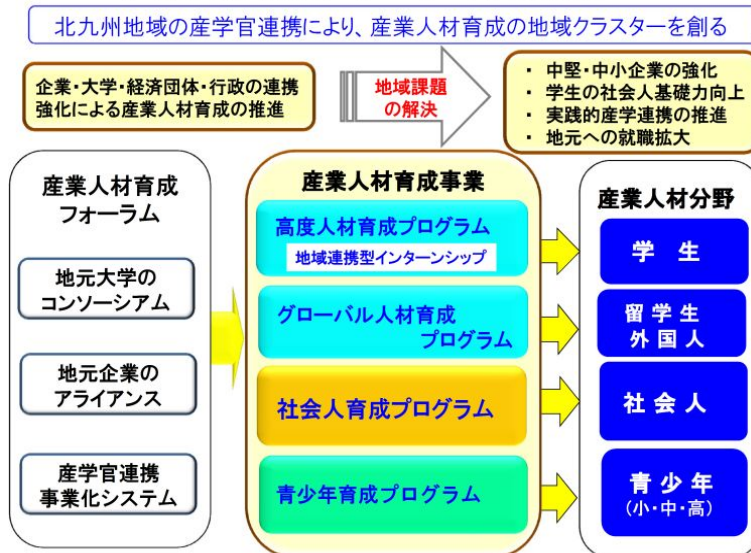
北九州市
大川理事

●平成28年度 産学連携教育審議会委員

会社名	役職	氏名
株式会社 安川電機	執行役員 人事総務部長	生山 武史
株式会社 日立製作所	人事教育総務センタ採用グループ部長代理	大竹 由希子
株式会社 西部技研	代表取締役社長	隈 扶三郎
独立行政法人 石油天然ガス・金属鉱物資源機構	理事長	黒木 啓介
トヨタ自動車九州株式会社	取締役 総務部担当 人財開発部長	杉山 敦
パナソニック 株式会社 先端研究本部	全社CTO室 技術人材戦略部 (兼) 先端研究本部 人事総務部 部長	中尾 類
アイシン精機 株式会社	人事部 部長	中村 武司



産業人材育成フォーラム事業構成



地域連携型インターンシップ事業の実施状況

- (1) 地域連携型インターンシップ事業の実施状況 (H26年度実績ベース)
- ① インターンシップ実施企業ベース : 140社 (122社)
 - ② 企業参加比率 : 70% (61%)
 - ③ フォーラムのインターンシップの実施率: 19% (23%)
(対全インターンシップ実施数)

	平成26年度		平成25年度		平成24年度	
	実施	登録	実施	登録	実施	登録
参加大学	5校	5校	4校	5校	4校	4校
参加企業	82社	92社	72社	80社	57社	63社
参加学生	137人	187人	122人	164人	121人	156人

(2) 大学別インターンシップ実施状況 (平成26年度実績)

大学名	対象学生数	IS実施数	実施比率	内フォーラム(%)
九工大	1,796人	367人	20.4%	49人 (13.4%)
北九大(環)	409人	77人	18.8%	8人 (10.3%)
西工大	338人	89人	26.3%	46人 (51.7%)
北九高専	260人	182人	70.0%	31人 (17.9%)
合計	2,812人	719人	19.5%	134人 (18.6%)



平成22年度

平成23年度

平成24年度

平成25年度

平成26年度

- スチューデント・レジデンス (飯塚)



外国人留学生及び日本人学生等に居住の場を提供し、併せて留学生及び日本人学生との国際交流の促進を図ることを目的として設置。スチューデント・レジデンスは情報工学部（飯塚キャンパス）内にあり、1戸3室でルームシェアとなっています。

- インタラクティブ学習棟 MILAiS (飯塚)



グループワークを中心とした、新しい授業スタイルと学びの確立を目指します。

- 教育研究6号棟・マテリアル棟 (戸畑)



- 本部棟 (戸畑)



- ランゲッジ・ラウンジ (戸畑)



国際交流と外国語によるコミュニケーション・スペース

- 製図講義棟 (戸畑)



2013年グッドデザイン賞に選定される。

- ラーニング・commons (飯塚・図書館内)



- 百周年中村記念館 (戸畑)



- 明専寮 (戸畑)



- ラーニング・アゴラ (飯塚)



勉強、学会、講演会、市民公開講座など多様な学習と交流の場。いろいろな発表やイベントで刺激を与え合う新たな学習の場として活用

- 国際研修館 (戸畑)

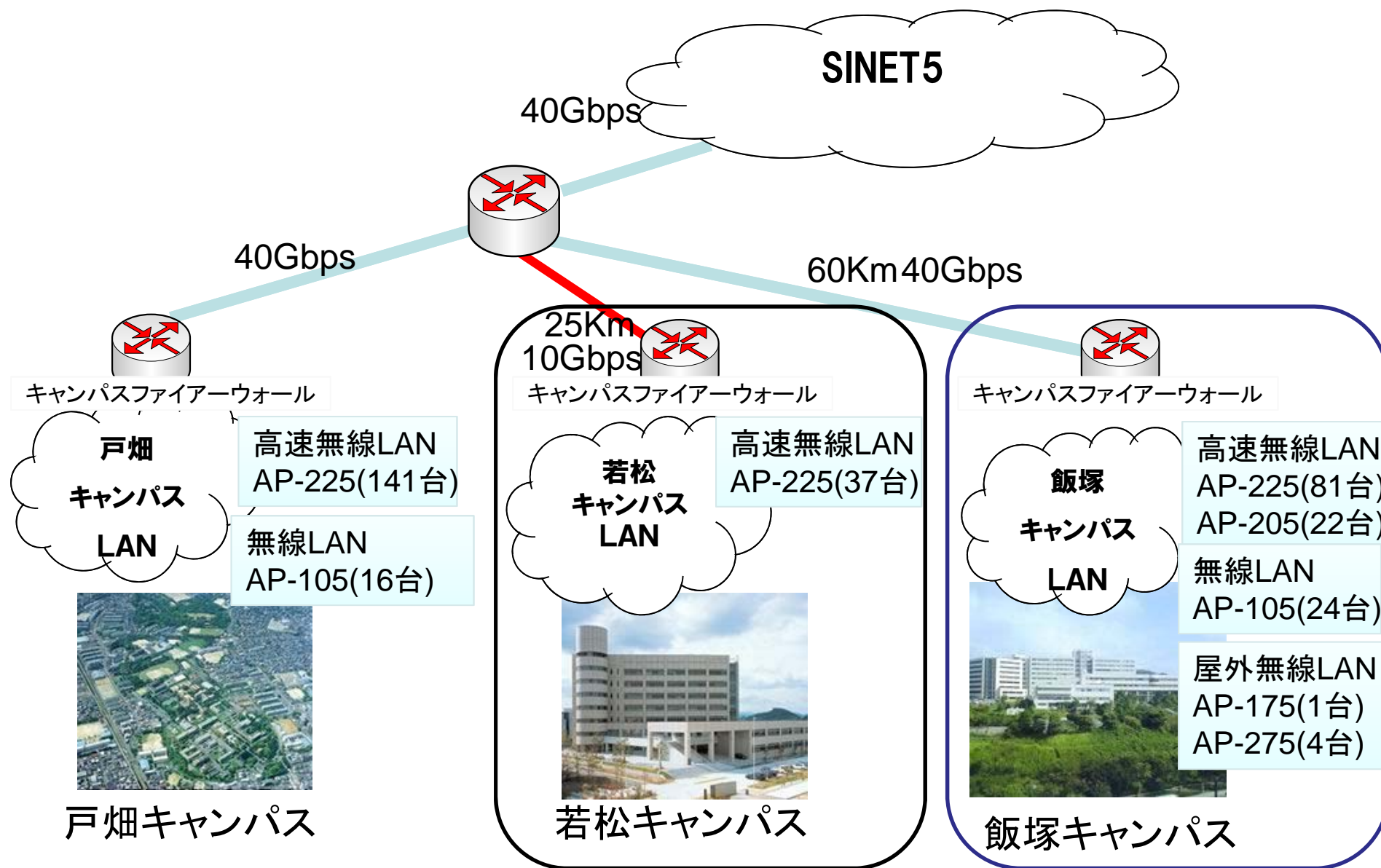


日本人学生と留学生の混住による国際交流及び、短期受入れ留学生と入館者との共働学習を行う宿泊型研修

- インタラクティブ学習棟 MILAiS (戸畑)



学生が自ら主体的に学ぶための環境を提供することを目的としている。



※ 高速無線LAN : IEEE 802.11ac [最大 1.3 Gb/s] 対応

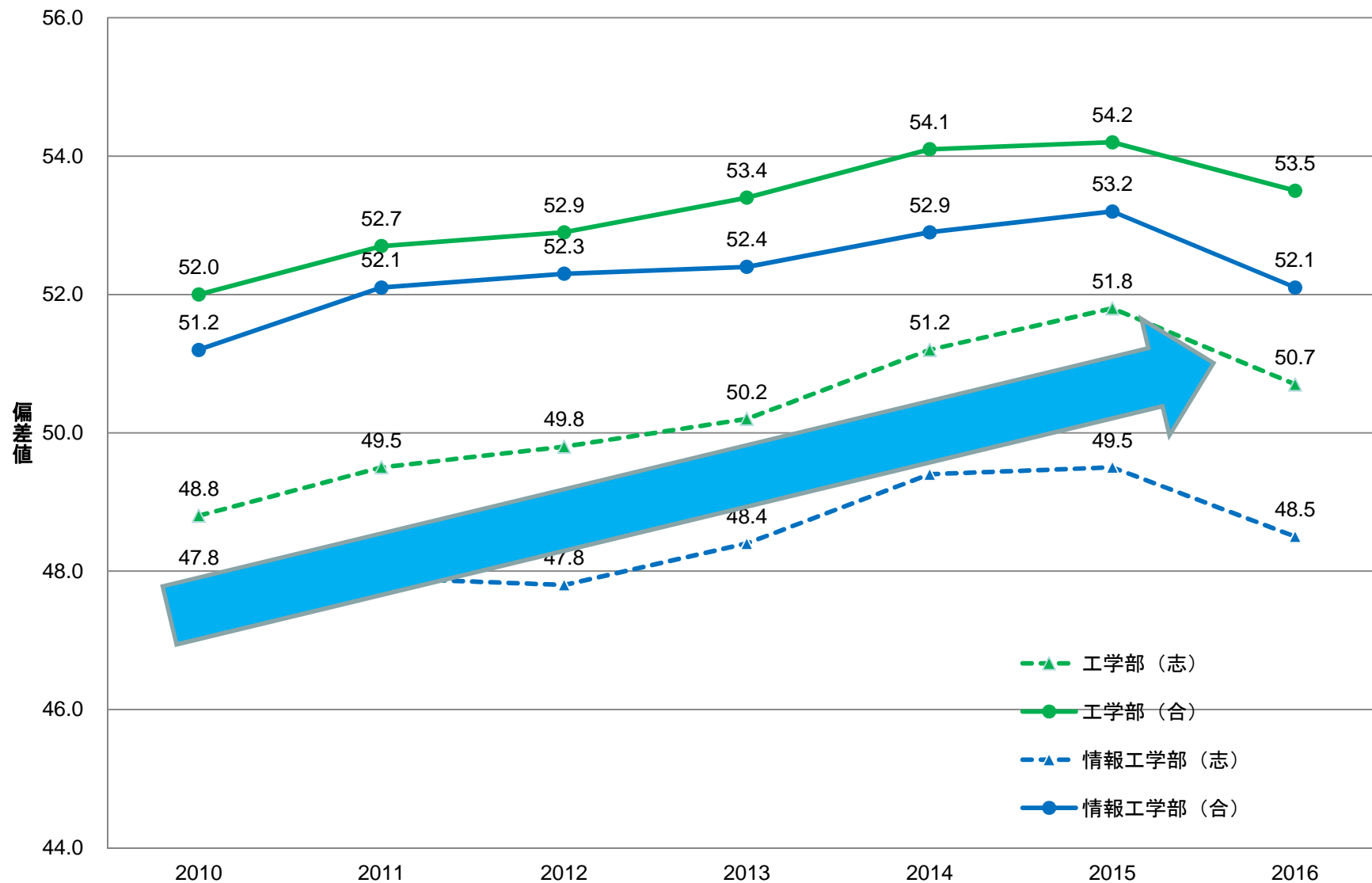


教育改革の成果



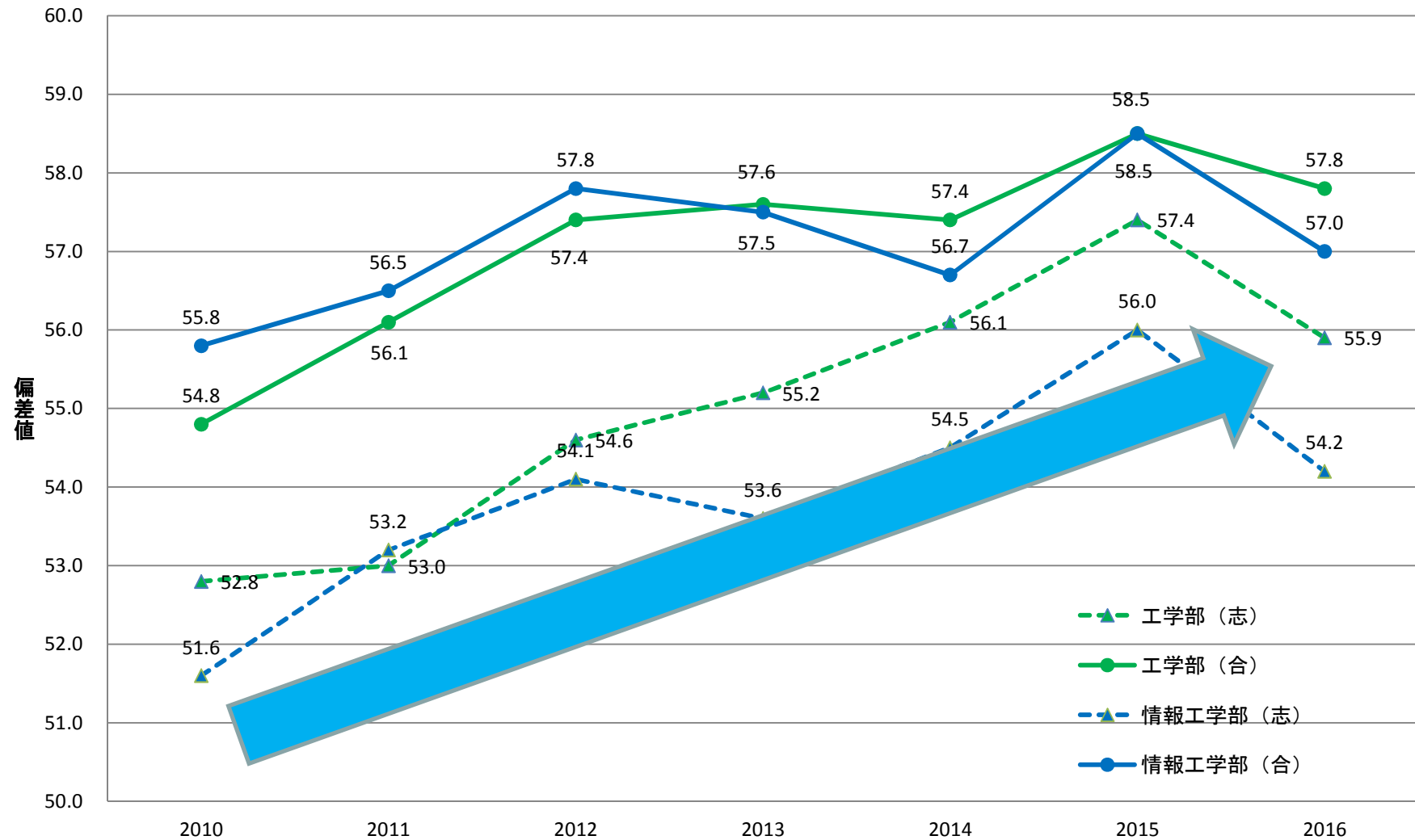


前期日程(5教科7科目・理系)偏差値の推移





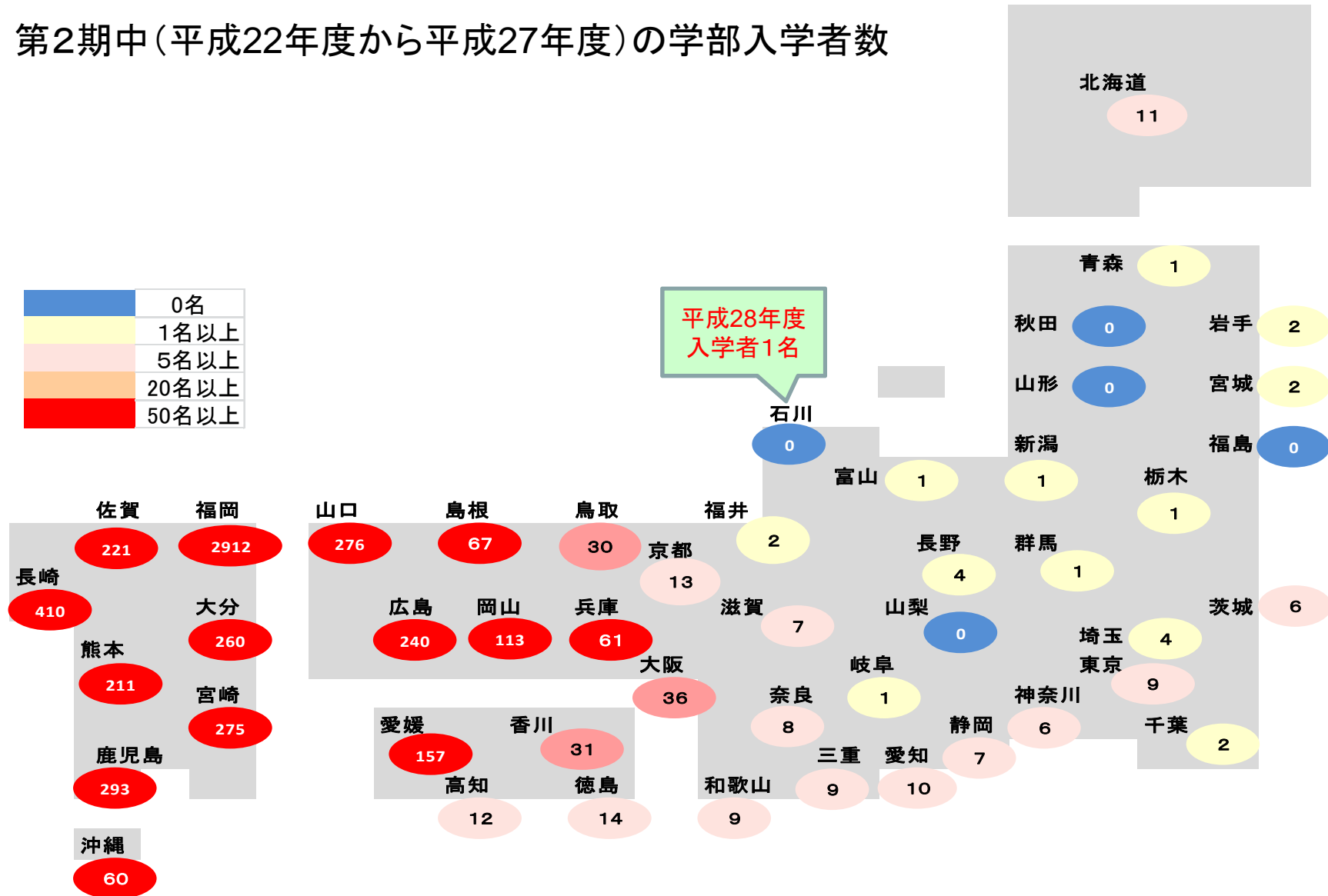
後期日程(5教科7科目・理系)偏差値の推移





第2期中(平成22年度から平成27年度)の学部入学者数

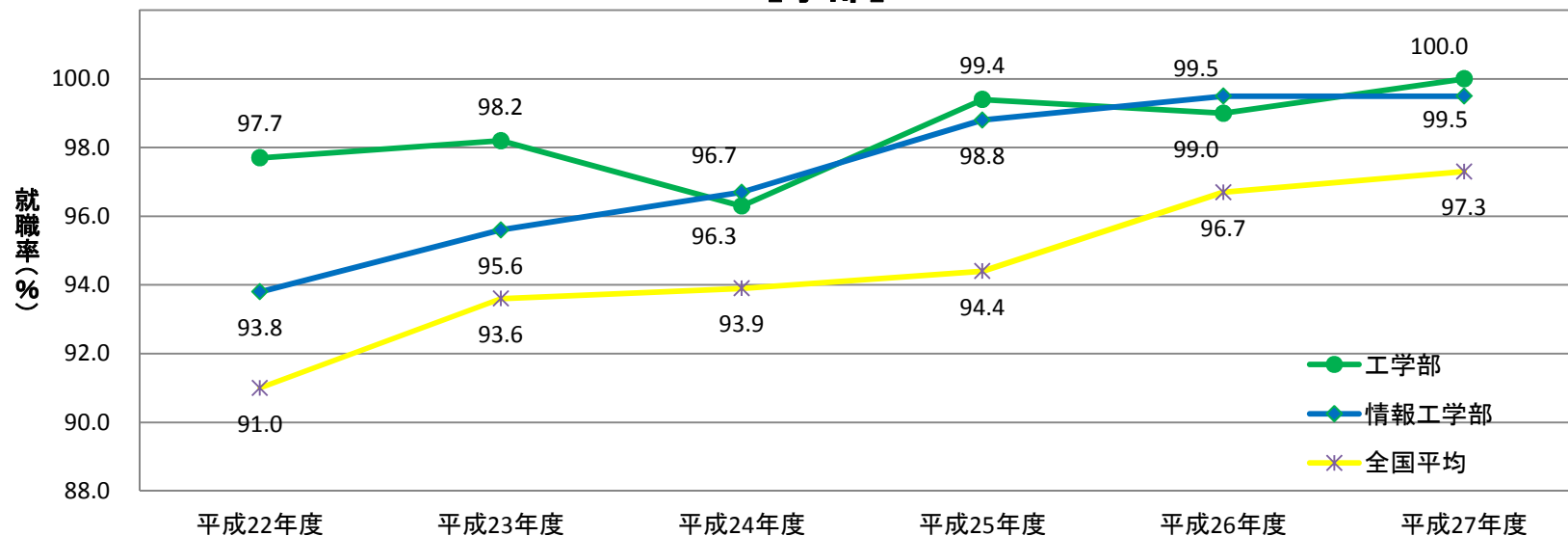
0名	0名
1名以上	1名以上
5名以上	5名以上
20名以上	20名以上
50名以上	50名以上



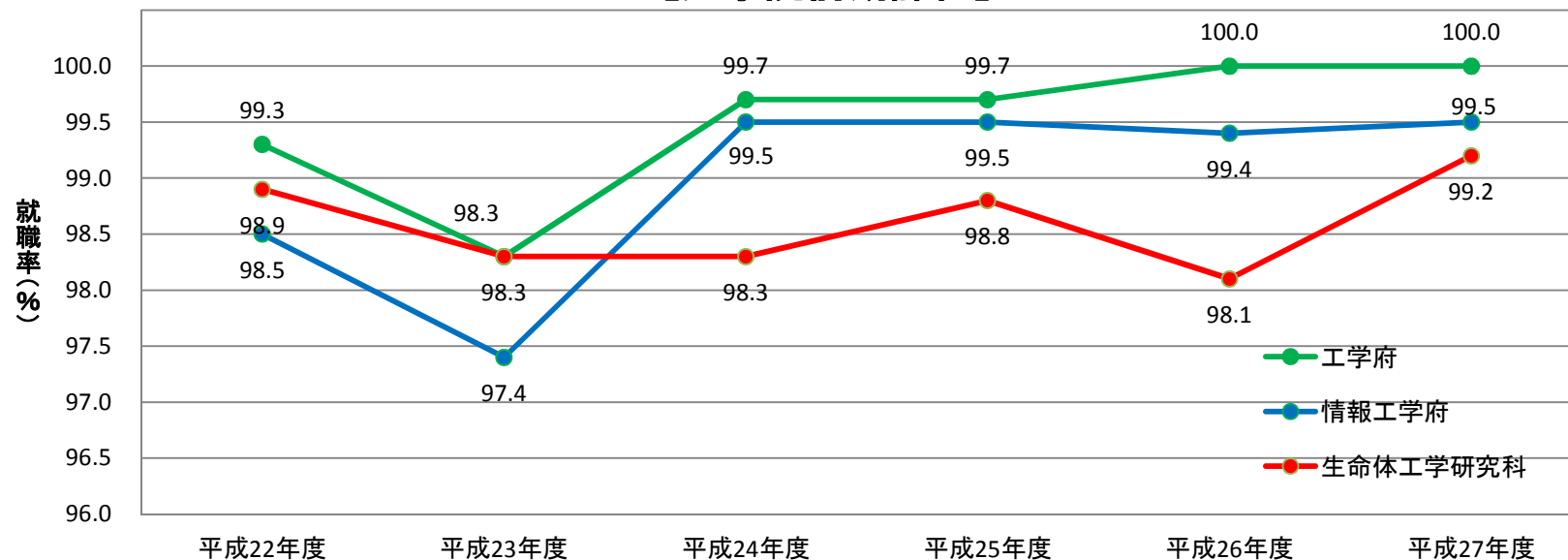
就職率の推移(3月卒業・修了者)



【学部】



【大学院前期課程】





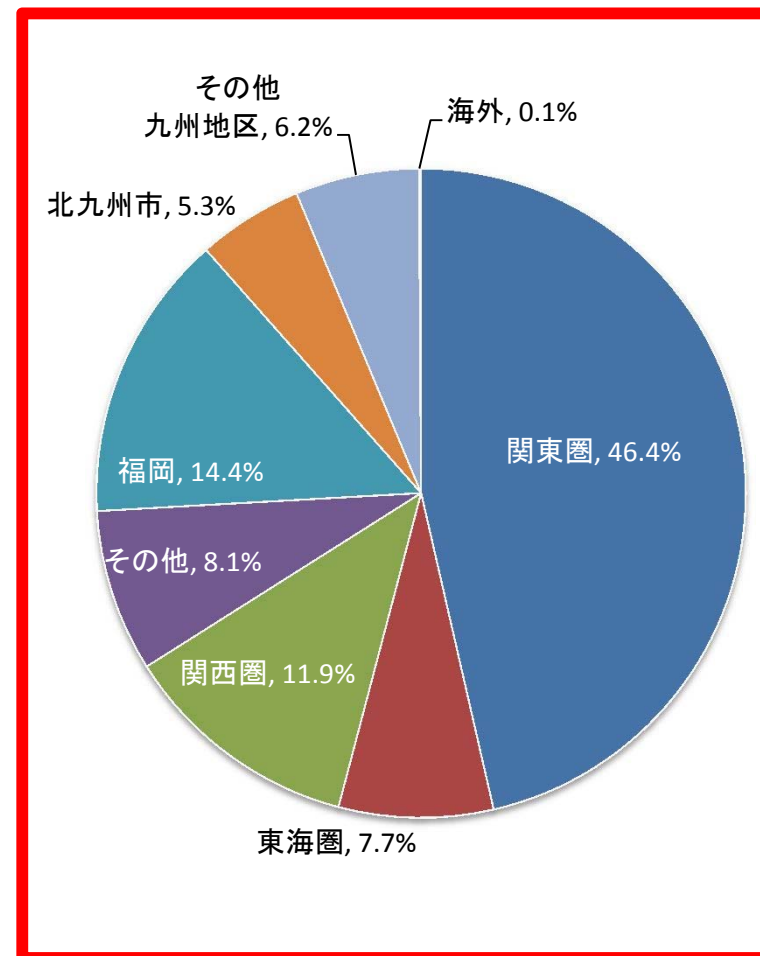
過去5年間就職者数上位 50社 (平成24年3月～28年3月学部・大学院卒業者)

※就職希望者数 学部 1,895名 大学院 3,151名

順位	就職先	就職者数	順位	就職先	就職者数
1	日立製作所	81	28	トヨタ自動車九州	21
2	三菱電機	62		エコー電子工業	21
3	三菱自動車工業	60	30	日立システムズ	20
4	オービック	57		IHI	20
5	本田技研工業(ホンダ)	48		キヤノン	20
6	スズキ	43		凸版印刷	20
7	アイシン・エイ・ダブリュ	37	34	九州工業大学(教員・研究員・職員等)	19
8	新日鐵住金	35		いすゞ自動車	19
	パナソニック	35		京セラ	19
10	トヨタ自動車	34	34	ソニーセミコンダクタ	19
11	九州電力	33	38	エヌ・ティ・ティ・データ(NTTデータ)	18
12	川崎重工業	32		東京エレクトロン九州	18
13	アイシン精機	30		日立ソリューションズ西日本	18
14	日鉄住金テックスエンジ	29	41	パナソニックシステムネットワークス	17
	富士通	29		三井ハイテック	17
	九州NSソリューションズ	29		三菱電機エンジニアリング	17
17	東芝	28		日本電気(NEC)	17
18	NECソリューションイノベータ	27	45	大日本印刷	16
19	三菱重工業	26		九電工	16
	神戸製鋼所	26		日本発条(ニッパツ)	16
21	日立造船	25		富士重工業	16
	日産自動車	25	49	エヌ・ティ・ティ・データ九州(NTTデータ九州)	15
23	富士電機	24		富士通エフ・アイ・ピー	15
24	北九州市役所	23		アルファシステムズ	15
25	TOTO	22		山九	15
	富士通九州ネットワークテクノロジーズ	22		日本精工	15
	マツダ	22			

※公務員 131名(上記の「北九州市」を含む。)

平成27年度 卒業(修了)者地域別就職者数(%)





面倒見が良い大学

全 大 学 14 位
国立大学 3 位
九州・沖縄 1 位

順位	大学名	種別
1	金沢工業大	私立大
2	武蔵大	私立大
3	東北大	国立大
4	国際教養大	公立大
5	明治大	私立大
6	立命館大	私立大
7	昭和女子大	私立大
8	国際基督教大	私立大
9	高知工科大	公立大
◇	産業能率大	私立大
11	東京理科大	私立大
12	東京大	国立大
13	日本大	私立大
14	九州工業大	国立大
15	新潟大	国立大
◇	津田塾大	私立大
17	福岡工業大	私立大
18	大阪大	国立大
◇	広島大	国立大
◇	東京女子大	私立大

就職に力を 入れている大学

全 大 学 11 位
国立大学 1 位
九州・沖縄 1 位

順位	大学名	種別
1	明治大	私立大
2	金沢工業大	私立大
3	立命館大	私立大
4	法政大	私立大
5	日本大	私立大
6	産業能率大	私立大
7	近畿大	私立大
8	中央大	私立大
9	早稲田大	私立大
10	慶應義塾大	私立大
11	九州工業大	国立大
12	国際教養大	公立大
13	福井大	国立大
14	青山学院大	私立大
◇	東京理科大	私立大

小規模だが評価できる大学

全 大 学 12 位
国立大学 2 位
九州・沖縄 1 位

順位	大学名	種別
1	国際教養大	公立大
2	国際基督教大	私立大
3	武蔵大	私立大
4	成蹊大	私立大
5	津田塾大	私立大
6	金沢工業大	私立大
7	成城大	私立大
8	一橋大	国立大
9	会津大	公立大
◇	産業能率大	私立大
11	学習院大	私立大
12	九州工業大	国立大
13	高知工科大	公立大
14	秋田県立大	公立大

教育力が高い大学

全 大 学 29 位
国立大学 14 位
九州・沖縄 2 位

順位	大学名	種別
1	東京大	国立大
2	京都市大	国立大
3	東北大	国立大
4	国際教養大	公立大
5	大阪大	国立大
6	東京理科大	私立大
7	国際基督教大	私立大
8	慶應義塾大	私立大
9	東京工業大	国立大
10	早稲田大	私立大
11	名古屋大	国立大
12	北海道大	国立大
13	広島大	国立大
14	九州大	国立大
15	一橋大	国立大
16	筑波大	国立大
17	金沢工業大	私立大
18	同志社大	私立大
19	立教大	私立大
20	上智大	私立大
21	東京外国語大	国立大
◇	武蔵大	私立大
23	産業能率大	私立大
24	日本大	私立大
25	津田塾大	私立大
26	神戸大	国立大
27	立命館大	私立大
28	明治大	私立大
29	お茶の水女子大	国立大
◇	九州工業大	国立大
◇	南山大	私立大

偏差値や地理的、親の資力などの制約が ない場合、生徒に勧めたい大学(国公立)

国立大学 27 位
国立大学 24 位
九州・沖縄 2 位

順位	大学名	種別
1	東京大	国立大
2	京都市大	国立大
3	東北大	国立大
4	大阪大	国立大
5	東京工業大	国立大
6	国際教養大	公立大
7	北海道大	国立大
8	一橋大	国立大
9	九州大	国立大
10	名古屋大	国立大
11	筑波大	国立大
12	広島大	国立大
13	神戸大	国立大
14	千葉大	国立大
15	首都大東京	公立大
16	岡山大	国立大
17	信州大	国立大
18	金沢大	国立大
19	新潟大	国立大
20	東京外国語大	国立大
◇	お茶の水女子大	国立大
22	東京農工大	国立大
23	埼玉大	国立大
◇	電気通信大	国立大
25	横浜国立大	国立大
26	大阪市立大	公立大
27	九州工業大	国立大
◇	大阪府立大	公立大
29	茨城大	国立大
◇	熊本大	国立大
◇	県立広島大	公立大

九州工業大学 評価ランキング

[サンデー毎日臨時増刊 大学入試に勝つ] (2015.10.17 毎日新聞出版発行)
全国の進学校750校の進路指導教員に対して実施された、受験生に勧めたいことが
できる大学に関するアンケート調査の結果、九州工業大学は以下のように評価され
ました。

全国779大学(うち、国立大学は86大学)* の中で、
九州工業大学は堂々の順位にランクインしました。

*平成27年度学校基本調査より



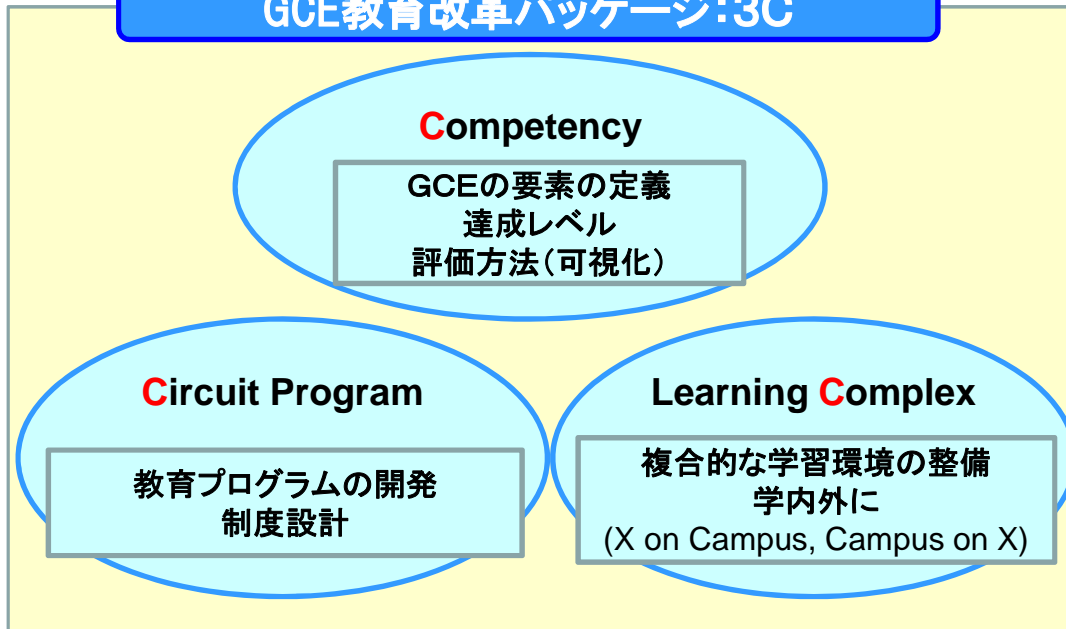
九州工業大学のグローバル化に関する取組





「社会と協働する教育研究の**インタラクティブ化**加速パッケージ」
～技術者のグローバル・コンピテンシー獲得へ～

GCE教育改革パッケージ:3C

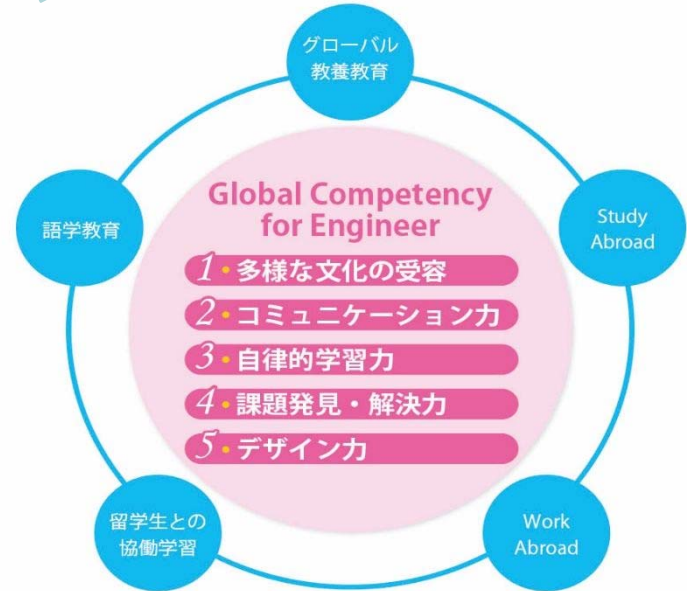


複合的な学習機会と学習環境による相互作用の創出

3つの相互作用:

- ・ 個人の中における相互作用(自律性)
- ・ 組織(チームなど)と個人との相互作用
- ・ 社会と個人との相互作用が生じる学修の推進

九工大が掲げる新しい
高度技術者養成教育





設置目的

1. 本学学生のグローバル化
2. 優秀な外国人留学生の獲得
3. 国際的な研究活動の推進
4. 教員や職員のグローバル化

運営方針

マレーシア現地における法人格の取得には膨大な経費や時間、労力を有するため、MSSCは次の方針により設置

- ・MSSCは、マレーシアプラ大学(UPM)との共同事業として実施
- ・MSSCはマレーシア法制度上はマレーシアプラ大学(UPM)の一組織という位置付けになるが、九工大の主体的な運営を維持
- ・UPMが持つ機能、施設や設備をMSSCの教職員や学生が利用

教育研究活動

- 教育
 - ・デュアルディグリープログラム(博士後期)の実施
 - ・海外インターンシップの実施
 - ・異文化交流プログラム(言語・文化体験)の実施 など
- 研究
 - ・パームオイルバイオマス関連の研究の推進
 - ・情報工学や宇宙工学分野、他分野への研究交流の拡大を促進
 - ・国際シンポジウムの開催 など
- その他
 - ・教員によるUPMでの英語による専門講義や共同研究などのFD活動の実施
 - ・事務職員のMSSCへの短期派遣による国際交流実務研修の実施
 - ・マレーシアでの留学生開拓(広報)拠点としての活用
 - ・本学のマレーシアにおける各種事業展開のベースとして活用 など

■ MSSCを活用した海外派遣プログラム (平成27年度実績) GCE教育の実践の場として、MSSCへの派遣を強化。

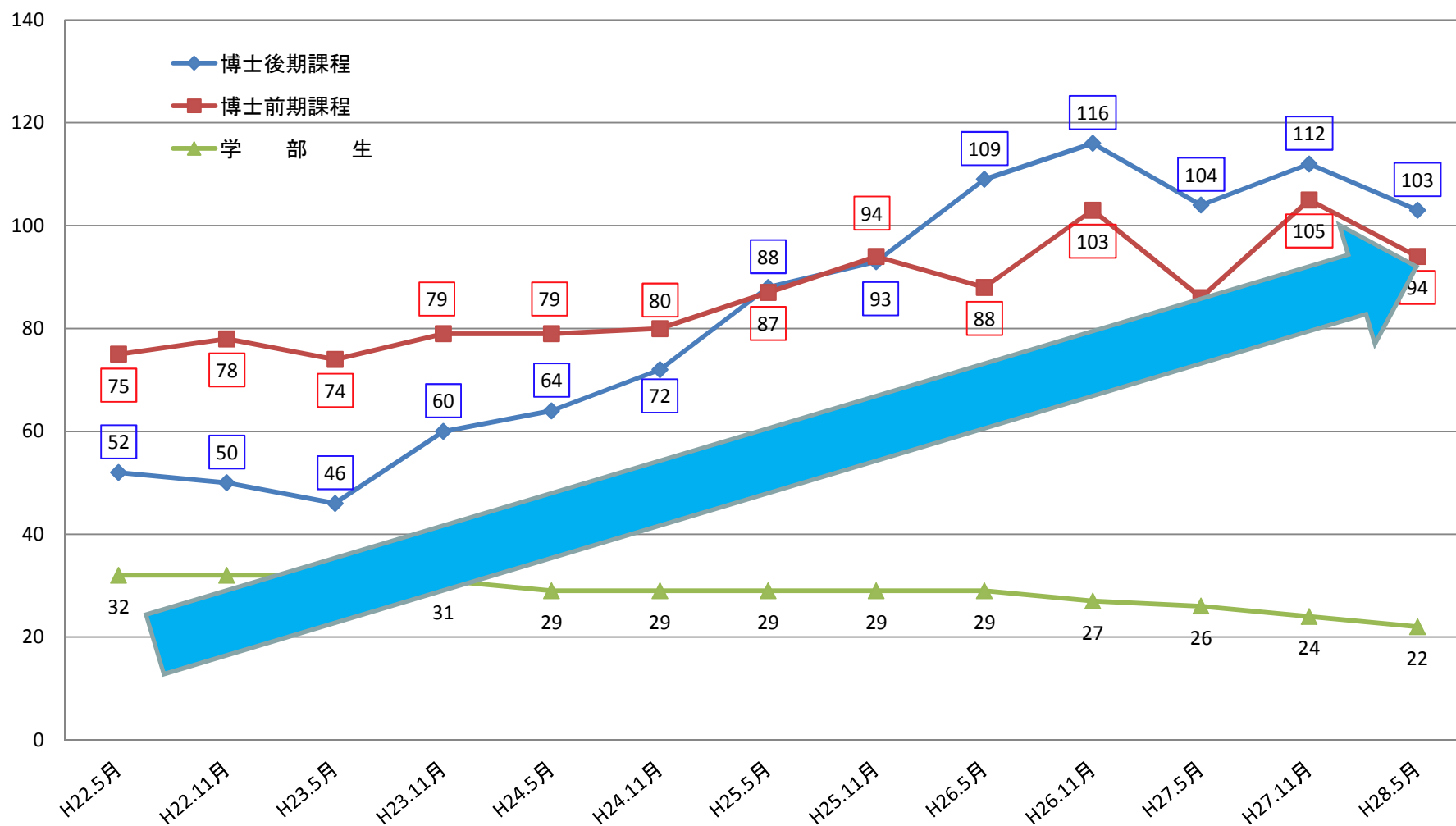
- ▶ 海外インターンシップ (Work Abroad) では、MSSCを拠点としてインターンシップ受入先企業を開拓し、合計19社、32名の学生を派遣した。
- ▶ 既に整備している高速・安定なMSSCのネットワーク環境及びテレビ会議・遠隔講義システムを活用し、海外派遣の事前・事後学習では、MSSC と本学とのネットワークを活用し、GCEの要素である「多様な文化の受容」を目的として、多民族、多宗教国家であるマレーシアに関する講義及び成果報告会を実施し、海外派遣の成果を最大限に高める取組を実施した。

事業名	派遣学生数	事業の目的
海外インターンシップ	学部・院生 32名	外国企業における就学体験
海外協定校短期派遣プログラム	学部生 20名	UPM学生との協働学習
グリーンイノベーションリーダー育成プログラム	院 生 10名	環境・エネルギー分野のグローバル教育
UPM短期派遣プログラム	院 生 35名	UPMを活用したコースワーク (工学教育)
国際先端情報科学者養成プログラム (IIFプログラム)	学部生 4名	情報工学分野において、英語を使ったプレゼン、ディスカッション能力の向上
S A E S 2 0 1 5	院 生 17名	U P Mと合同で開催するシンプ時無で学生が研究発表
国際マインド強化プログラム	院 生 6名	研究室に短期派遣



グローバル化の成果

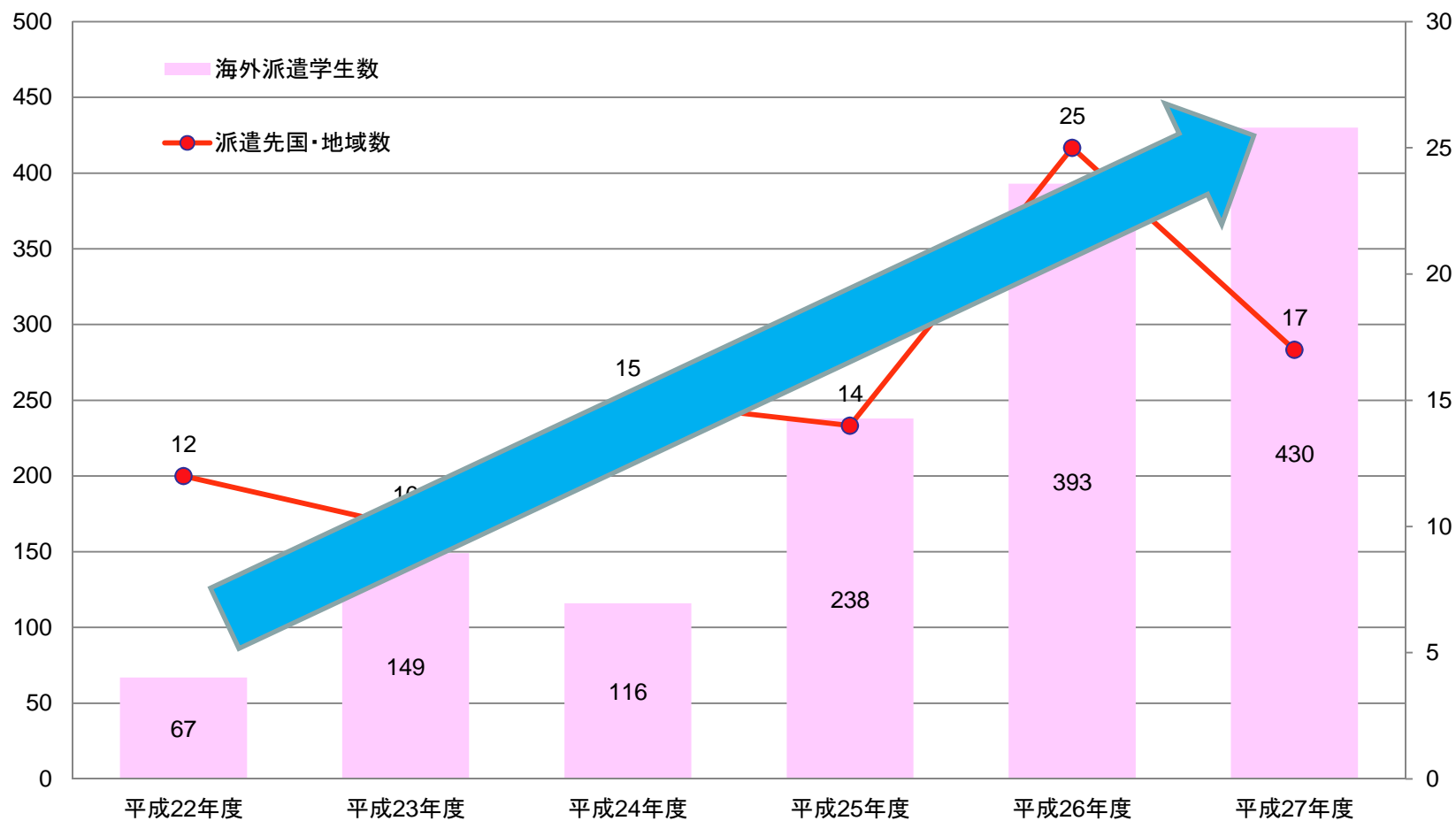




■ 34カ国・地域より留学(平成28年5月1日現在)

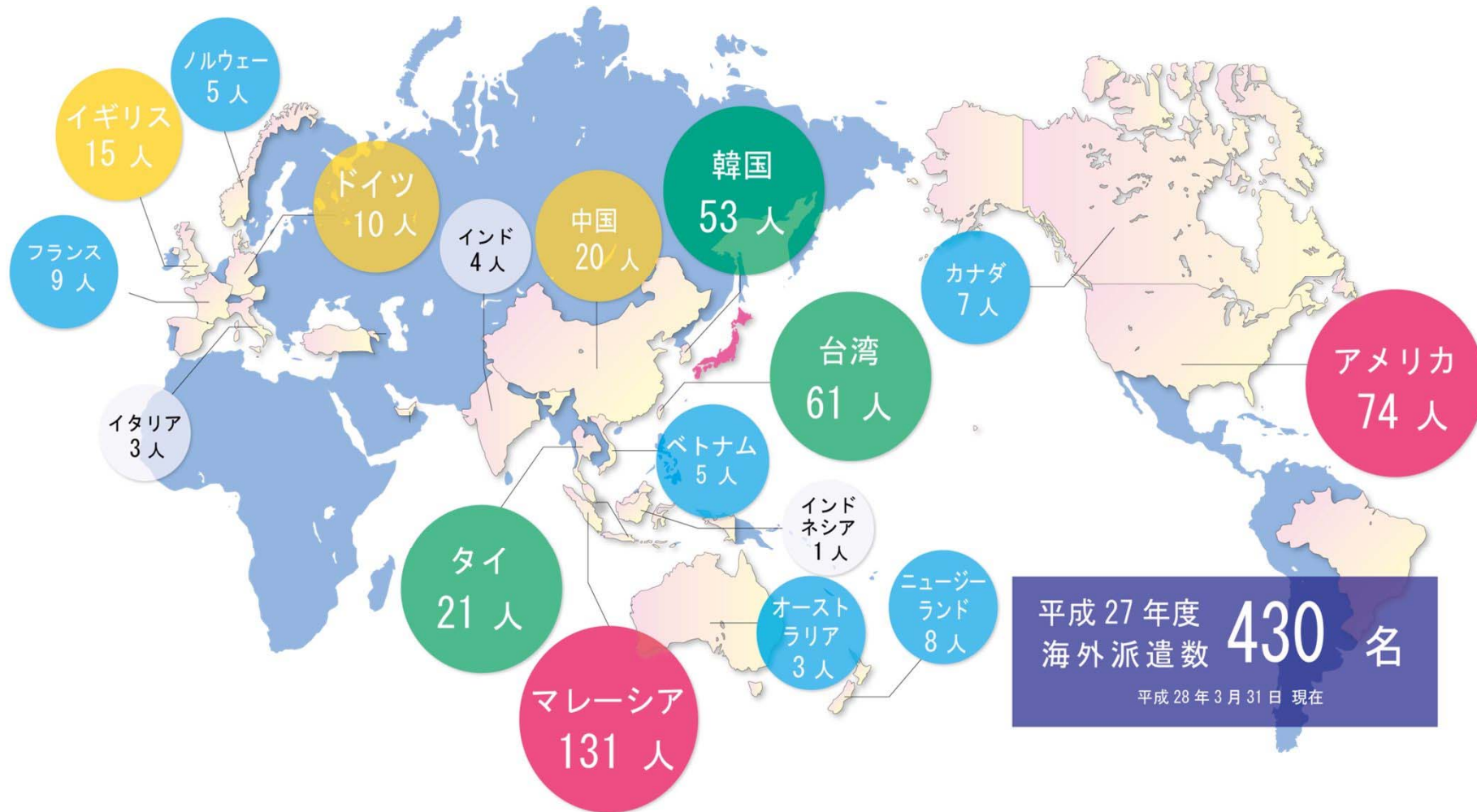
留学生Top5カ国: 中国 89名 マレーシア 22名 インド 22名 インドネシア 19名 韓国 19名

■ 国際交流協定校 105機関 28カ国 (平成28年5月1日現在)



■平成27年度実績 17カ国・地域へ

Top5 マレーシア 131名・アメリカ 74名・台湾 61名・韓国 53名・タイ 21名



平成26年度 393名 平成27年度 430名の学生を海外派遣
＜＜マレーシア拠点の有効的活用が特徴的＞＞

海外インターシップの状況



国・地域	企業名	H24年度	H25年度	H26年度	H27年度	計
アメリカ	Office Sekkei		1			1
	Trial Retail Engineering, Inc		1			1
	SynTest Technologies, Inc.			3		3
	Jamco America, Inc.			5		5
イタリア	INTERSTUDIO S.R.L		1			1
インド	Nihon Technology Private Limited (NTPL)	1				1
インドネシア	PT ISK INDONESIA	1				1
タイ	(株) アダマス	1				1
	ROHM Integrated Systems(Thailand) Co.,Ltd.			2		2
	ローム・アポロ株式会社 (Thailand)				3	3
台湾	KINIK COMPANY	2				2
	藤テムザック tmsukFormosa				1	1
中国	電装(上海) 信息技术有限公司	1				1
ベトナム	F PT Software			6	5	11
UAE	ibda design		1			1
マレーシア	AEON CO.(M) BHD.			5	3	8
	CANON MACHINERY (MALAYSIA) SDN.BHD.			2	1	3
	DAIHATSU (MALAYSIA) SND. BHD.				2	2
	JETRO KUALA LUMPUR			1	1	2
	KDDI Malaysia Sdn.Bdh.				2	2
	KISO-JIBAN(MALAYSIA) SDN BHD				1	1
	KYUDENKO MALAYSIA SDN. BHD.				2	2
	MINEBEA ELECTRONICS MOTOR (MALAYSIA) SDN.BHD.			2	2	4
	Oji Asia Management SDN.BHD.			2	1	3
	ORGANO (ASIA) Sdn.Bdh.				1	1
	PANASONIC AVC Networks Kuala Lumpur Malaysia Sdn.Bdh.				2	2
	Panasonic Manufacturing Malaysia BHD.			2	2	4
	SANKYU(MALAYSIA) SDN. BHD.				2	2
	SHARP ELECTRONICS Malaysia SDN. BHD.				2	2
	Sri Takada Industries Sdn.Bdh.				1	1
	SUMITOMO MITSUI BANKING CORPORATION, Kuala Lumpur Office	1				1
	Top Thermo Mfg. (Malaysia) SDN.BHD.			2	1	3
	Toyo Engineering & Construction Sdn. Bhd.				2	2
	TOYOTA AUTO BODY (MALAYSIA) SDN.BHD.		2	4	2	8
UMW Toyota Motor Sdn Bhd		2	2	2	6	
計	計	7	8	38	41	94

ダブルディグリー協定大学と修了者数



大学名	国・地域	対象学生	取得学位	修了者数
ロレーヌ工科大学	フランス	博士 前期課程学生	Diplôme d'Ingénieur (技師国家資格) 又はDiplôme National de Master(修士)	8
揚州大学	中国	博士 前期課程学生	工学修士 Master of Engineering	20
		博士 後期課程学生	工学博士 Doctor of Engineering	2
西安電子科技大学	中国	博士 前期課程学生	工学修士 Master of Engineering	0
		博士 後期課程学生	工学博士 Doctor of Engineering	0
台湾科技大学	台湾	博士 前期課程学生	工学修士 Master of Science in Engineering	0
		博士 後期課程学生	工学博士 Doctor of Philosophy	0
パリ高等機械工学院	フランス	工学府博士 前期課程学生	技師国家資格 Diplôme d'Ingénieur	2
昌原大学校	韓国	博士 前期課程学生	工学修士 Master of Engineering	0
		博士 後期課程学生	工学博士 Doctor of Engineering	0
プトラ大学	マレーシア	生命体工学研究科 博士後期課程学生	工学博士 Doctor of Philosophy	1
キングモンクット大学 トンブリ校	タイ	工学府博士 前期課程学生	工学修士 Master of Engineering	0
キングモンクット大学 北バンコク校	タイ	工学府博士 前期課程学生	工学修士 Master of Engineering	0
гент大学	ベルギー	工学府博士 後期課程学生	工学博士 Doctor of Philosophy	1

平成28年5月現在の在籍状況

受入:ロレーヌ工科大学 3名(内日本国籍1名)、揚州大学 5名、プトラ大学 6名、
キングモンクットトンブリ校1名、台湾科技1名

派遣:プトラ大学1名



国際連合と連携した衛星開発能力構築のための
宇宙工学国際コース
【平成24年度】工学府

国際連合宇宙部と連携し、衛星開発能力構築(Capacity Building)を目指す途上国等から学生を募集し、博士前期・後期学生として受け入れる。宇宙環境試験等の実践を通じたOn-the-Job Training、留学生・日本人の共同作業による衛星開発に関するProject Based Learning、英語による体系だった宇宙工学関連の講義と研究指導を通じて、母国での宇宙プログラムをゼロから立ち上げられるリーダーと世界に通用するタフな高度技術者を育成する。

コース入学者	2013/10/1	2014/10/1	2015/10/1	計
国費留学生	5	6	6	17
私費留学生	3	4	15	22



■23カ国・地域より留学

アルジェリア・インドネシア・ヴェトナム・ウクライナ・エジプト・ガーナ・コスタリカ・コロンビア・シンガポール・スーダン・タイ・トルコ・ナイジェリア・パレスチナ・バングラディッシュ・フィリピン・フランス・ベトナム・ペルー・マレーシア・メキシコ・モンゴル・ルーマニア

先進的支援ロボット工学の国際展開を担う
人材育成プログラム
【平成26年度】生命体工学研究科

ヒトと環境の状況に応じた自動装置・支援具をカスタム開発し産業や医療福祉の諸問題を解決するための先進的支援ロボット技術(AAR)を我が国の戦略上重要な国々の留学生に教授する。日本人学生との共同学習・研究を基本とし、またインターンシップや共同研究などの産学連携を通して国際化・海外拠点化を目指す企業にAARに関するグローバルエンジニアを輩出する。

コース入学者	2015/10/1	2016/4/1	計
国費留学生	6	0	6
私費留学生	6	4	10

教育研究基盤とその出口

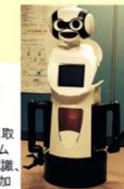
基盤

本学理念「技術に堪能なる士君子」
養成に基づく自主的な学生活動



Hibikino Musashi
RoboCup中型リーグ(国内優勝6連覇、海外でも歴戦)

サービス・ロボット『EXI@』
家庭環境において課題に取り組む(ロボカップ@ホームリーグ)で音声認識、顔認識、自律移動を行う競技に参加



脳・人間の特性を踏まえた
デバイス・ロボット研究教育

21世紀COEプログラム

「生物とロボットが織りなす脳情報工学の世界」(2002-2008)
神経生理分野、心理情動分野、理論モデル分野、デバイス分野、ロボティクス分野の分野横断型教育研究

Brain-ISプロジェクト

特別教育研究経費(文部科学省)
「脳が生命を吹き込むBrain-IS研究プロジェクトの推進—知的パートナー機械の実現—」(2009-2014)

先進的支援ロボット工学(AAR)

適応的生活支援

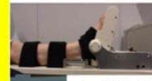


先進的支援ロボット工学(AAR)は、人や脳を知ること、家庭・病院・施設・工場のニーズに合わせた自動装置・支援具を開発できる産業基盤の担い手としてのグローバル人材を輩出します。

カーボ連携大学院

研究開発チームを先導する次世代を担うリーダーとしての高度専門人材を育成

生産設備の知能化



社会ロボット具現化センター

リハビリ支援

(IEEE Spectrum特集記事)

出口

少子高齢化へ対応したまちづくり

産業基盤の再構築

医療や介護の現場で活用できるロボット技術の導入による医療現場の労働者の負担軽減、高度医療の提供、患者の疼痛軽減やリハビリ促進

ものづくりを支える製造業では、施設の老朽化や高齢化などの問題を抱え、生産設備の知能化を積極的に支援し生産効率や安全性を向上



九州工業大学の研究力強化に関する取組





(方針) 世界トップレベルの研究実績や国益に貢献できる機能を発現できる研究分野を、重点プロジェクトセンターとして整備。
 (背景) 規模の小さい国立大学法人として、研究活動の強化に対する迅速なガバナンスを全学的に推進し、優れた研究プロジェクトを財務及び人事面で重点化する。
 (成果) 重点プロジェクトセンターは、高いCIの論文の生産、国際標準規格の獲得（4件）と産学連携による事業化を実証し、学術および社会貢献の両面で評価できる成果を挙げつつある。

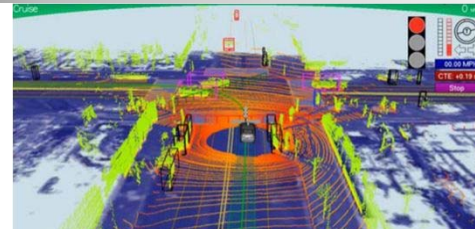
分野	重点プロジェクト研究センター	活動実績
環境関連工学	エコタウン実証研究センター (H17設置)	パームオイル産業と生物多様性を両立させるゼロエミッション化 (JST・JICA: SATREPS事業) と温暖化ガスの大幅削減国連登録のCDM事業、経済的成功を成し遂げた国際的産学連携事業
	先端エコフィッティング技術研究開発センター (H19設置)	室内光でウィルス殺菌、抗カビを実現する次世代光触媒技術の事業化と地場企業の振興 分子界面科学に関する諸研究、Googleにおける検索数800~1000件/月、突出した影響力
航空宇宙工学	宇宙環境技術ラボラトリー (H16設置)	衛星帯電放電、超高速衝突、宇宙材料劣化、超小型衛星試験、 世界初 の軌道上300V発電に成功 ISO-11221「衛星搭載太陽電池パネルの帯電放電試験方法」の成立 ISO-11227 九工大主導で宇宙ゴミ関係の国際標準化成立
高信頼集積回路	ディペンダブル集積システム研究センター (H25設置)	JSTの特許群に認定。低キャプチャ電力テスト技術を 世界に先駆けて 開発。低電力LSIテスト技術に関する 最初 の英語専門書を出版。国際会議の最優秀論文賞を3件受賞。 次世代無線LAN国際規格2件。
	次世代パワーエレクトロニクス研究センター (H24設置)	オープンラボ構想による産学連携。産総研・北九州市との連携。 究極の省エネを目指した極限パワー半導体デバイスの開発 新世代パワーエレクトロニクス・システム研究コンソーシアム(NPERC-J)に参画
情報通信ネットワーク	ネットワークデザイン研究センター (H16設置)	コグニティブ無線マルチホップ車車間通信システムの 世界初 実証実験
ロボティクス	社会ロボット具現化センター (H25設置)	極限環境(海洋、公共空間など)のフィールドロボットの設計・開発、船底掃除用水中ロボット等の実用化
歯工学連携などの異分野融合研究	バイオマイクロセンシング技術研究センター (H16設置)	世界初 の電気化学的手法による遺伝子高感度検出法、歯工学連携による歯周病検出法
	バイオメディカルインフォマティクス研究開発センター (H24設置)	生命システム設計支援シミュレータ(CADLIVE)の開発、カプセル型のロボット(消化管内走行カプセル)の開発 飯塚医療イノベーション推進会議の発足



自動運転・安全運転支援総合研究センター

(平成26年5月1日センター設立)

経済産業省:平成27年度
【次世代ロボット中核技術開発】
「理論知識型AIとデータ駆動型AIの統合による自動運転用危険予測装置の構築と公道実証」採択



レーザーダを用いた高速3次元物体認識

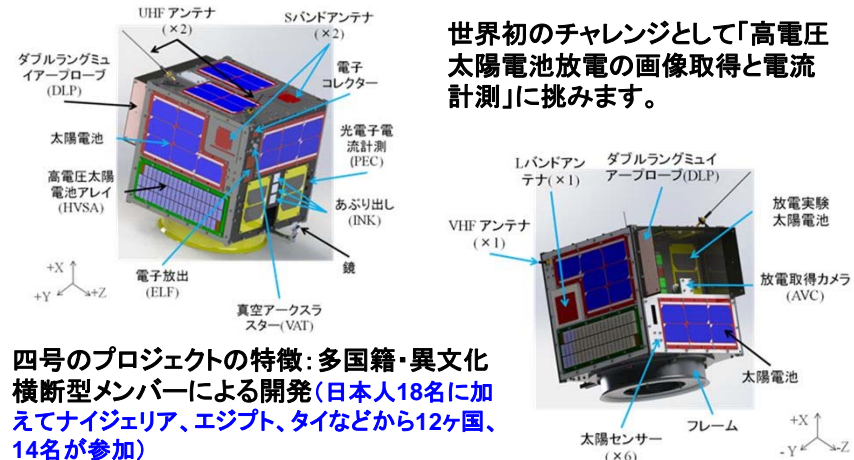
前方路面の傾斜推定



本研究センターでは、人工知能を持つ完全自動運転車両の開発を目指します。

【北九州学術研究都市・九州工業大学・北九州市立大学・早稲田大学大学院連携】

宇宙環境技術ラボラトリー



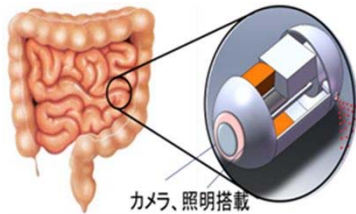
世界初のチャレンジとして「高電圧太陽電池放電の画像取得と電流計測」に挑みます。

四号のプロジェクトの特徴: 多国籍・異文化横断型メンバーによる開発(日本人18名に加えてナイジェリア、エジプト、タイなどから12ヶ国、14名が参加)

製作した放電実験衛星「鳳龍四号」が搭載されたH-2Aロケット30号機が、平成28年2月17日(水)17時45分に種子島宇宙センターより打ち上げられました。

バイオメディカルインフォマティクス研究開発センター

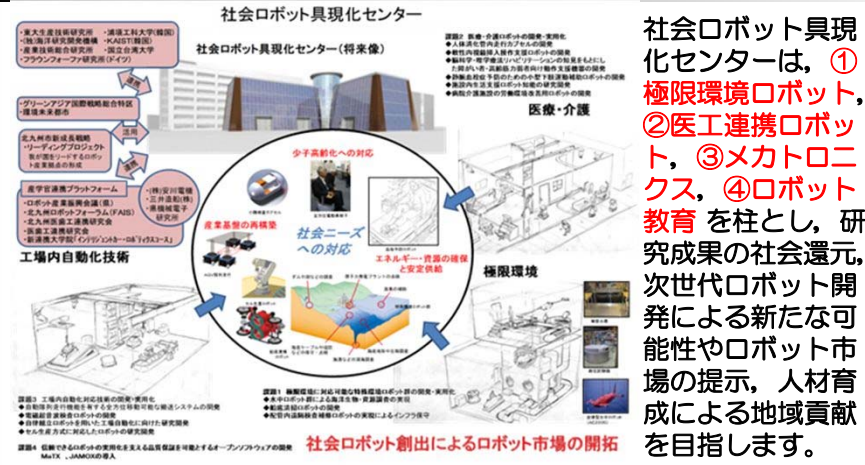
体内を動き回るカプセルが医療を変える～消化管内走行カプセル～



(2014年5月23日)

情報工学技術を活かして、(株)飯塚病院、飯塚市、飯塚研究開発機構と協力して、米国シリコンバレーの教育研究機関と連携しながら、飯塚市発の産学官連携・医工情報連携拠点 (e-ZUKA モデル) を構築する。デザイン思考で、人(患者、医療従事者)にやさしい身近な医療を実現する。

社会ロボット具現化センター



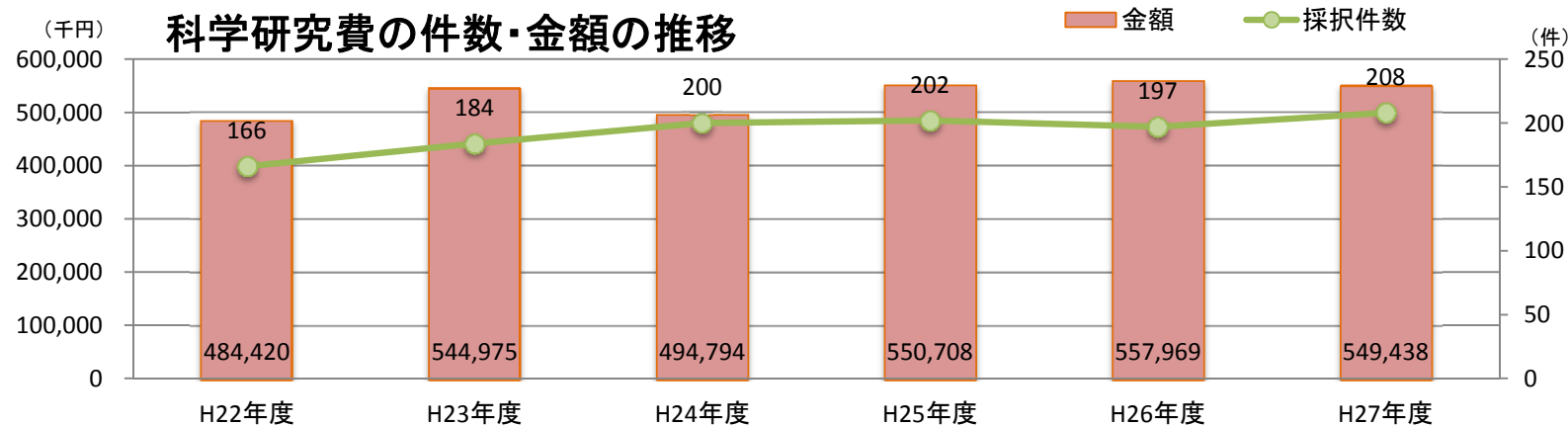
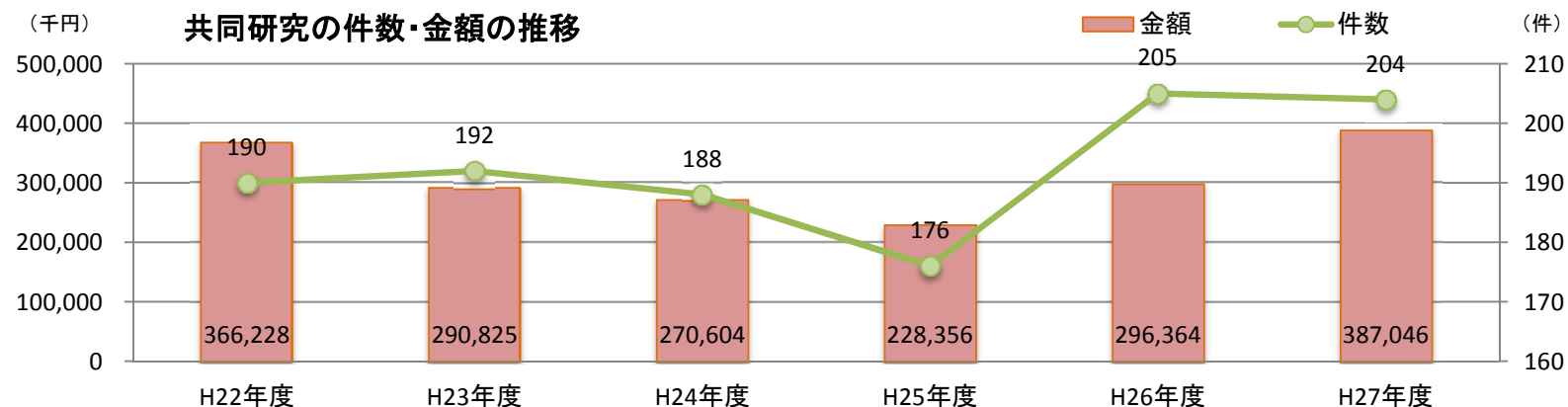
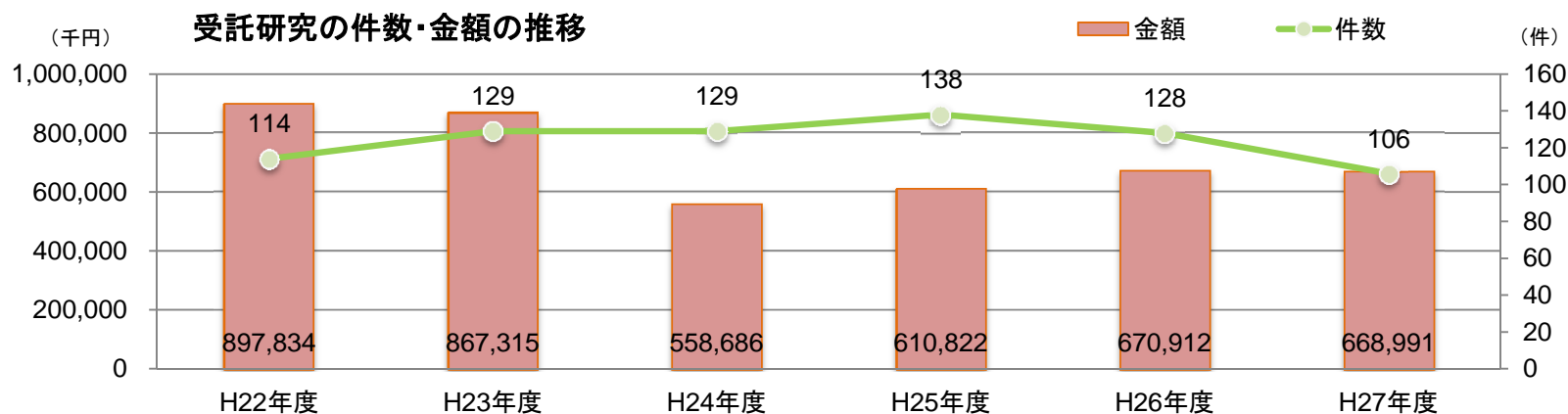
社会ロボット具現化センターは、①極限環境ロボット、②医工連携ロボット、③メカトロニクス、④ロボット教育を柱とし、研究成果の社会還元、次世代ロボット開発による新たな可能性やロボット市場の提示、人材育成による地域貢献を目指します。

平成27年度 佐伯広域森林組合(大分県佐伯市)と、林業現場の労働環境改善に向けた自動下刈ロボット等の開発等を行うことを目的としたコンソーシアム協定を締結



研究力強化の成果







◆対象機関 (全1,085機関) 国公立大学(短期大学を含む)、国公立高等専門学校、大学共同利用機関

平成26年度	
地域社会との産学連携(同一県内中小企業との共同研究実施件数)	19位
民間企業との共同研究費受入額(研究者数別)300名以上~500名未満	2位
研究者1人当たりの民間企業との共同研究費受入額	12位
研究者1人当たりの特許権	10位
民間企業との共同研究実施件数	26位
民間企業との共同研究費受入額	27位
中小企業との共同研究実施件数	26位
知的財産にかかる特許権実施等件数(外国分を含む)	24位
知的財産にかかる特許権実施等収入(外国分を含む)	24位
知的財産にかかる特許権保有件数のうち実施許諾中の特許権数の割合	29位

世界大学ランキング2015-2016

タイムズ・ハイアー・エデュケーション (THE) による
世界大学ランキング2015-2016
(世界の大学のうち、800大学をランキングで発表)

- 世界大学ランキング 601~800位
- 国内ランキング 36位/41大学

評価基準【5項目】	
Teaching 教育(学習環境)	30.0%
International outlook 国際観(教職員・学生)	7.5%
Industry income 産業収入(技術革新)	2.5%
Research 研究(量・収入・評判)	30.0%
Citations 論文引用(研究の影響)	30.0%

◆ランクインした国内大学 (ランク順)	
43位	東京大学
88位	京都大学
201-250位	東北大学, 東京工業大学
251-300位	大阪大学
301-350位	名古屋大学
401-500位	筑波大学, 北海道大学, 首都大学東京, 九州大学, 東京医科歯科大学
501-600位	広島大学, 東京農工大学, 大阪市立大学, 金沢大学, 慶應義塾大学
601-800位	千葉大学, 早稲田大学, 横浜市立大学(YCU), 神戸大学, 東京理科大学, 順天堂大学, 岡山大学, 熊本大学, 徳島大学, 豊橋技術科学大学, 岐阜大学, 近畿大学, 埼玉大学, 信州大学, 東京海洋大学, 横浜国立大学, 新潟大学, 大阪府立大学, 愛媛大学, 九州工業大学 , 長崎大学, 鳥取大学, 東海大学, 上智大学, 昭和大学



九州工業大学 平成30年度改組計画等の概要

(平成28年3月24日)

国立大学法人 九州工業大学



- **社会ニーズに柔軟に対応できる体制を構築します**
 - 産業構造の変化や社会ニーズに対応する学科の再編成とコースの設定
 - 学生の卒業後の出口を広げるような教育分野の導入
- **学生の適性を見極めた専門分野の決定を可能とします**
 - 類別の入試と共通教育の実施
 - 共通教育による応用性の高い基礎力と複眼的視野の養成
 - 学部共通教育終了後の学科配属（Late Specialization）による進路選択のミスマッチ解消
 - 大学院進学時の柔軟なコース選択
- **本学の有する特色を活かし、強みをさらに強化します**
 - 学科の再編，および，大学院への接続を円滑にするコース制
 - ミッション再定義に基づく重点分野の強化
 - 進行中の教育改革と連動した教育体制の整備

進行中の教育改革

グローバル教養教育

- ・バランスのとれた体系的グローバル教養科目の設定
- ・学部高学年や大学院における教養教育の開講

クォーター制

- ・前後期をそれぞれ半分の期間で分ける4学期制の導入
- ・海外研修期間を考慮した必修・選択科目の設定

6年一貫教育の導入

- 「グローバルエンジニア養成コース（GEコース）」
- ・学部3年次～博士前期課程1年次の間に中長期の海外経験等
 - ・卒業研究に代わるプロジェクト研究

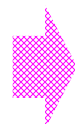
その他

- ・コアカリキュラムの設定
- ・学修ポートフォリオ 等

学科の再編(平成30年度)

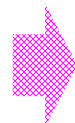


工学部 (旧)
建設社会工学科
機械知能工学科
総合システム工学科
電気電子工学科
応用化学科
マテリアル工学科



工学部 (新)	
建設社会工学科	建築学コース/国土デザインコース
機械知能工学科	機械工学コース/知能制御工学コース
宇宙システム工学科	機械宇宙システム工学コース/電気宇宙システム工学コース
電気電子工学科	電気エネルギー工学コース/電子システム工学コース
応用化学科	応用化学コース
マテリアル工学科	マテリアル工学コース

情報工学部 (旧)
知能情報工学科
電子情報工学科
システム創成情報工学科
機械情報工学科
生命情報工学科



情報工学部 (新)	
知能情報工学科	データ科学コース/人工知能コース/メディア情報学コース
情報・通信工学科	ソフトウェアデザインコース/情報通信ネットワークコース/コンピュータ工学コース
知的システム工学科	ロボティクスコース/システム制御コース/先進機械工学コース
物理情報工学科	電子物理工学コース/生物物理工学コース
生命化学情報工学科	生物医用情報工学コース/生物化学システム工学コース

※本計画は、設置認可申請のための大学による構想であり、変更する場合があります。

類別入試(平成30年度入試)



■ 工学部及び情報工学部で、それぞれ類別の入試を実施します。

■ 入学者は、類に所属し、共通教育（グローバル教養科目，自然科学科目，情報科目等）を受けた後、適性や興味等に応じた進路選択を行い、学科へ所属して専門的な学修を行います。

工学部

入 試	共通教育	学 科 (2年進級時に配属)
工学1類		建設社会工学科
工学2類		機械知能工学科
工学3類		宇宙システム工学科
工学4類		電気電子工学科
工学5類		応用化学科
工学5類		マテリアル工学科

情報工学部

入 試	共通教育	学 科 (2年後期に配属)
情工1類		知能情報工学科
		情報・通信工学科
情工2類		知的システム工学科
		物理情報工学科
情工3類		生命化学情報工学科

※本計画は、設置認可申請のための大学による構想であり、変更する場合があります。



英語の外部検定試験導入について (H29)





一般入試前期・後期日程、推薦入試Ⅰ及び推薦入試Ⅱに利用する英語の外部検定試験の換算表について

I. 英語の資格・検定試験の一定のスコア（級）を取得し、スコアシート等を出願時に提出した場合の加点又は置き換えは、下の換算表のとおりです。

(1) 一般入試（前期・後期日程）について

一定のスコア（級）を取得している場合、

工学部：大学入試センター試験の「英語」に加点します。

情報工学部：換算点が大学入試センター試験の「英語」リスニング点よりも高いときは、その換算点に置き換えます。

(2) 推薦入試Ⅰ（大学入試センター試験を課さない）について

一定のスコア（級）を取得している場合、

工学部：得点に加点します。

情報工学部：英語の口頭試問を免除し、英語を満点とします。

(3) 推薦入試Ⅱ（大学入試センター試験を課す）について

一定のスコア（級）を取得している場合、

工学部：大学入試センター試験の「英語」に加点します。

情報工学部：一般入試（前期日程・後期日程）と同じく換算点が大学入試センター試験の「英語」リスニング点よりも高いときは、その換算点に置き換えます。

II. 換算表

【工学部の加点の換算表】

前期 推薦Ⅰ・Ⅱ	後期	TOEIC		TOEFL			GTEC		実用英語技能 検定(英検)	Cambridge English	IELTS	TEAP 4技能
		2技能 (L&R)	4技能 (L&R)(S&W)	Junior comprehensive	iBT	Junior standard	for students 3技能	CBT				
30点	15点	945	1305	352	95	-	-	1400	1級	180	7.0	400
16点	8点	785	1095	341	72	850	800	1250	準1級	160	5.5	334
4点	2点	550	790	322	42	740	675	1000	2級	140	4.0	226
2点	1点	350	510	300	25	640	485	700	準2級	120	3.0	186

注) 加点する際には、各入学者選抜試験の配点を上限とします。

【情報工学部の置換の換算表】

前期・後期 推薦Ⅱ	推薦Ⅰ	TOEIC		TOEFL			GTEC		実用英語技能 検定(英検)	Cambridge English	IELTS	TEAP 4技能
		2技能 (L&R)	4技能 (L&R)(S&W)	Junior comprehensive	iBT	Junior standard	for students 3技能	CBT				
50点	満点	600	860	325	45	770	740	1100	(注)	150	4.5	240
45点		550	790	320	40	740	675	1000	2級	140	4.0	226
40点		470	680	315	35	700	610	900	-	130	3.5	213
35点		400	580	310	30	670	550	800	-	125	-	200
30点		350	510	305	25	640	485	700	準2級	120	3.0	186
25点		300	440	300	20	620	425	600	-	-	-	173

注) 英検1級、準1級の場合、一般入試(前期・後期)及び推薦入試Ⅱでは50点に置き換え、また、推薦入試Ⅰでは満点とする。

※上記の内容は現時点のものであり、変更等が生じた場合は本学ホームページ (<http://www.kyutech.ac.jp/>) でお知らせしますのでご注意ください。